

2025年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
31111A	総合ゼミナールⅡ（江良友子）	江良友子			1	必修	2後期
科目の概要							
前期の総合セミナーⅠに引き続いて、図書館の授業で学んできた図書館サービスを実践的に理解するために、本学図書館を主要なフィールドとして図書館の「館内展示」と校内掲示板の「掲示」の制作、『図書館だより』の発行を行う。また、受講者の興味に応じて読書会やビブリオバトル、図書館見学会などを行う。（基礎知識の獲得・活用・応用） 受講生による自主的な運営と共同作業を基本とすることで、建学の精神を踏襲するとともに社会人基礎力を育成し、図書館司書の仕事に必要な課題解決型能力を身につける。 （ディプロマポリシー①・②・③・④・⑤・⑥に相当する）							
学修内容				到達目標			
① 館内展示の計画・作成の方法を学び、制作を行う。 ② 掲示板の計画・作成の方法を学び、制作を行う。 ③ 図書館だよりの計画・作成の方法を学び、制作を行う。 ④ 司書資格取得科目で学んだ読み聞かせやPOP作成等の技術を使ったコミュニケーションを実施する（自主企画）。 ⑤ 図書館で学んだことを活かして、大学・社会へ貢献をする。				① 貸出に繋がる館内展示を考え、制作することができる。（ディプロマポリシー②） ② 図書館と本の魅力をアピールする掲示を考え、制作することができる。（ディプロマポリシー②） ③ 図書館だよりを通じて大学図書館をアピールすることができる。（ディプロマポリシー②） ④ 本学・他大学の学生や図書館職員、地域の人々と交流するための企画立案・製作・参加ができる。（ディプロマポリシー①・③・④） ⑤ 大学と社会貢献に繋がる活動に参加することができる。（ディプロマポリシー①・④・⑤・⑥）			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	現在のゼミ活動の中で何をすべきか見極め、自発的に作業に取り組むことができる。					
	働きかけ力						
	実行力	更に良い作品にするにはどうしたらよいかを考え、過程を大切にしながら制作に取り組むことができる。					
考え抜く力	課題発見力	常に周りの動向に注意を払い、正確な作業工程を把握して作品制作ができる。					
	計画力						
	創造力	図書館利用者を意識した、館内展示、掲示、図書館だより制作ができる。					
チームで働く力	発信力	本や紙芝居など資料をハブとしたコミュニケーションを本学・他大学の学生、図書館員や地域住民と取ることができる。 一年間のゼミ活動を振り返るとともに、ゼミ発表をすることができる。					
	傾聴力	自分と異なる意見を持つ他者の話にも耳を傾けることができる。					
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性	遅刻・無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。					
	ストレスコントロール力						
テキスト及び参考文献							
テキスト：必要に応じて参考資料等を配布する。 参考文献：必要に応じて配布する。							
他科目との関連、資格との関連							
他科目との関連：図書館に関する全ての科目 資格との関連：図書館司書							
学修上の助言				受講生とのルール			
司書として現場で仕事をするために必要なことを実践的に学習する。 受け身ではなく、積極的に発言・行動すること。 図書館だけでなく、展示・掲示制作で参考となる博物館などへ自ら足を運び、学習することが望ましい。				無断欠席はしない。必ず連絡・報告する。 話し合いで決定した事項は、全員で協力して行うこと。 授業時間以外の時間、土日や休暇期間を使って作品制作・行事への参加をする場合がある。 自主企画や図書館見学に要する費用は自己負担とする。			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		レポート	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	90	①	✓			
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓				
			②	✓				
			③	✓				
			④	✓				
			⑤	✓				
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
S（秀）評価 ゼミの授業時間以外で参加・発表の場が与えられた時は、積極的に参加し、発表することができる。 割り当てられた作品を期日までに制作でき、図書館利用推進に繋がるものに仕上がっている。 学校内外の行事・イベントに意欲をもって臨み、参加することができる。 社会人基礎力の学修態度が9割以上達成できている。 A（優）評価 ゼミの授業時間以外で参加・発表の場が与えられた場合には参加し、発表することができる。 割り当てられた作品を期日までに制作でき、図書館利用推進に繋がるものになるよう、努力できている。 学校内外の行事・イベントに臨み、参加することができる。 社会人基礎力の学修態度が8割以上達成できている。	B（良）評価 ゼミの時間以外に参加・発表の場が与えられた場合は、参加・発表するよう努力している。 割り当てられた作品を期日までに作成できている。 学校内外の行事・イベントに参加できている。 社会人基礎力にある学修態度が7割以上達成できている。 C（可）評価 ゼミの授業時間以外で参加・発表の場が与えられた場合には、参加できている。 割り当てられた作品を期日までに制作するよう努力している。 学校内外の行事・イベントに臨み、参加することが難しかった。 社会人基礎力の学修態度が6割以上達成できている。或いは、達成には至らないが努力できている

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	オリエンテーション 授業の進め方説明と後期計画の検討を行う	講義 話し合い PC・タブレットを使用した調査を含む	授業の趣旨を理解し、後期計画に自分の意見を反映させることができる。	(第1回予習) 自主企画の案を考えて図案化する。 (復習) 自主企画の見直しを行う。 (予習) 資料貸出増加に繋がる展示にするために必要なことを考える。	90	主体性 傾聴力 規律性
2～4	館内展示 図書館内の展示企画と作成、参考となる図書館見学を行う (基礎知識の獲得・活用・応用)	演習(作成) 図書館見学(予定) 作成物の講評(フィードバック) PC・タブレットを使用した調査を含む	館内展示(10～3月分)の企画・作成、展示作業を行うことができる。	(各回予習) 魅力的な展示にするために必要なことを考え、発表できるようにまとめる。 (各回復習) 展示の企画・作成・展示作業の振り返りを行う。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
5～7	掲示 掲示板を有効に使う方法を学習し、掲示作成を行う (基礎知識の活用・応用)	演習(作成) 作成物の講評(フィードバック) PC・タブレットを使用した調査を含む	掲示(10～3月分)の企画・作成、掲示作業を行うことができる。	(各回予習) 月替わり展示・掲示制作作業 ・季節 ・色使い ・レイアウト を考える。 (各回復習) 掲示の企画・作成・掲示作業の振り返りを行う。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
8・9	自主企画 (基礎知識の活用・応用)	話し合い 演習又は実習、見学 PC・タブレットを使用した調査を含む	自主企画案を出すことができる。 決定した内容に沿って作業に参加できる(制作物の場合は完成させることができる)。	(各回予習) 第1回授業で決定した自主企画準備 ・日程 ・材料 ・道具 (各回復習) 自主企画の企画・作成・作業の振り返りを行う。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10～12	図書館だより 図書館だよりの企画と制作を行う (基礎知識の獲得・活用・応用) ①紙面の作り方 ②アンケートの実施方法 ③インタビューの仕方 ④本の紹介 ⑤読者層に合わせた記事の書き方	図書館だより 春号 演習(作成) 作成物の講評(フィードバック) PC・タブレットを使用した調査を含む	図書館だよりの企画・制作、発行ができる。	(各回予習) 図書館だより企画・作成準備 ・レイアウトの参考となる資料 ・インタビュー ・紹介する本 (各回復習) 図書館だよりの企画・作成・発行作業の振り返りを行う。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
13・15	学科ゼミ発表準備 学科発表に向けて発表準備を行う (基礎知識の活用・応用)	話し合い 役割分担 プレゼンテーション PC・タブレットを使用した調査を含む	割当たった役割を理解し、各自が最大限努力できる。	(各回予習) 発表テーマを考えて臨む。 役割に応じて： ・発表用シナリオを作成する。 ・発表用P Pを作成する。 (各回復習) 作成物の見直しと発表練習をする。	90	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
14	後期の反省会 (基礎知識の活用・応用)	オンデマンド授業 13週までの授業で作成・実施した内容について講評する	後期に作成した作品の振り返り、課題検討ができる。	(予習) これまで作成した作品を振り返り、課題をあげることができる。 ☆出席課題 後期の反省と課題を書いてグループで提出をする。 (復習) 社会に出てからゼミ活動で培った力がどのように役立つか500字程度にまとめる。		主体性 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2025年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
31111B	総合ゼミナールⅡ（大森有希乃） Seminar（Food and nutrition）	大森有希乃			1	必修	2後期
科目の概要							
人間は生きるための栄養素を食事から摂る。「食べること」は単に栄養素を摂取することだけでなく、健康を維持したり、おいしく食することで心の豊かさを育てる。また共に食えることにより社会性を育んでいく（ディプロマポリシー①）。「食べることは生きること」であり、食をおいしさ、文化、栄養、安全性など様々な面から考え、食の大切さを理解することは、社会人としての基礎をつくることでもある（ディプロマポリシー①②③④⑥）。獲得してきた知識を活用し、レシピコンテスト、地域貢献活動などに合わせた献立やレシピを作成し、実際に調理を行って、実践力を身につけていく（ディプロマポリシー④）。そして、常に「真心・努力・奉仕・感謝」の建学の精神を大切にしながらゼミ活動を行うことによって、pisa型学力の修得とともに健康な体と健全な精神を修得することを目指していく（ディプロマポリシー①②③④⑥）。							
学修内容				到達目標			
① 食に関する活動（地域貢献活動 など）を通じて、おいしさ、栄養、安全、ビジネスなど食を多面的に考え、食のイベントの企画 運営ができる実践力を養う。 ② 食物アレルギー対応のクリスマス会を企画し、食物アレルギーの対応のスキルを身につける。 ③ 米粉の特性を理解し、地域食材を活用した米粉スイーツを提案する。 ④ レシピ開発を学ぶ。アイデアの発案から、試作、評価、改善までの一連のプロセスを理解し、オリジナルのレシピを作成する。 ⑤ 地域社会との連携と食の支援活動を学ぶ。				① 食に関する活動に積極的に参加し、必要な情報を収集してイベントの計画を立て、実践できる（ディプロマポリシー①②③④⑥）。 ② みんな一緒にのクリスマス会を企画・実施し、食物アレルギー対応レシピの調理、子どもへの適切な対応ができる。（ディプロマポリシー①②④⑥） ③ 米粉を使った新しい商品やアイデアを提案し、食料自給率を高める方法を提案できる（ディプロマポリシー②③④⑥） ④ ターゲット層に適したレシピを考案し、食材の選定や調理法を効果的に立案できる。（ディプロマポリシー②③④⑥） ⑤ 実際の子ども食堂の運営に参加することによって、地域の課題解決に貢献する能力を養う。（ディプロマポリシー①④⑥）			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	指示を待つのではなく、シラバスの予習・復習を読み、やるべきことを考えて次の準備や行動を起こす。					
	働きかけ力	自分では解決できないことがあった時は、そのままにせずにゼミの仲間や先生に相談する。					
	実行力	ゼミ活動は、粘り強く取り組み、目標を達成する。					
考え抜く力	課題発見力	ゼミ活動の目標達成のために、自分の課題を考えて行動する。					
	計画力	イベント参加や資格試験合格に向け、目標と目的を明確にして計画を立て、実行する。					
	創造力	一つの知識からだけではなく、いろいろな知識を組み合わせるアイデアを考える。					
チームで働く力	発信力	相手の目（顔）を見て話し、相手が自分の話を正しく理解しているかの反応をみて、相手に分かりやすく伝える力を身につける。					
	傾聴力	話を聞く時は、うなずきやあいづちをし、大事なことはメモをとりながら聞く。					
	柔軟性	自分と異なる意見や考えも理解しようと努め、よりよい方向に向かってゼミ活動を進める。					
	状況把握力	仲間の行動を見ながら、自分のやるべき役割を考えて行動する。					
	規律性	遅刻、無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。					
	ストレスコントロール力	ストレスを乗り越えれば次は楽になるという前向きな気持ちを持ち、ゼミの仲間や先生に相談したりして取り組むようにする。					
テキスト及び参考文献							
テキスト：なし。必要に応じて、資料を配布する。 参考文献：なし							
他科目との関連、資格との関連							
他科目との関連：ゼミ選択時においてフードクリエイティブ、フードスペシャリスト関連科目を受講していることが望ましい。 資格との関連：なし							
学修上の助言				受講生とのルール			
・日頃から自分や家族の食事に関心を持ち、健康的な食生活を送るよう努力して欲しい。 ・料理をする機会を多く持ち、知識と技術を習得し、レシピコンテストに積極的に参加する。 ・食に関する情報に関心を持って欲しい。				・調理実習を行う時は、準備・後片付けの時間も必要となるため、ゼミの時間を延長することもある。 ・授業に必要な費用についてはオリエンテーションで提示する。 ・調理実習時は、身だしなみ（白衣、三角巾着用、爪を切る、アクセサリー、ネイルはつけないなど）に注意する。			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		レポート	40	①	✓			・レポート提出（20点） ゼミで取り組んだテーマについてまとめ、レポートにして提出する。（取り組んだ内容、結果、感想（社会人基礎力を含む）についてまとめる。）提出は、Googleclassroomで行い、提出期日は厳守する。 ・レシピ集の作成（20点） レシピ集は、レイアウト、デザインの工夫がされており、読みやすく、わかりやすい構成になっていること。言語表現が適切で、誤字脱字がないことも含めて評価する。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	50	①	✓			・ターゲット層に適したレシピを考案する。（20点） これまでに獲得した知識を活用し、食に関する問題点を見出す。問題点を解決し、生涯における食事がより良いものに改善できるレシピを提案する。 ・考案したレシピの調理を班ごとに行う。（20点） メンバーで協力して調理にあたる。獲得した知識を活用する力および課題を解決する力を評価する。作業効率、チームでの協力、仕上がり・味、工夫点、試食後の改善点の提案などを評価する。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			（主体性） 予習・復習をし、ゼミ活動が円滑に行えるように準備することができる。 （働きかけ力） わからないことがあった時、周囲に質問や相談ができる。 （実行力） 自分が立てた目標に対して粘り強く取り組んでいる。 （課題発見力） ゼミ活動がスムーズに行えるよう絶えず課題を考えて行動している。（計画力） 目標に向けて計画を立て実行する。 （創造力） ゼミ活動のいろいろなテーマに対して1つ以上のアイデアを出すことができる。 （発信力） 相手がわかるように話をするができる。 （傾聴力） 話を聞く時はメモをとりながら聞くことができる。 （柔軟性） 人の意見を最後まで聞き、理解しようと努力できる。 （状況把握力） 仲間の行動を見ながら自分の立場や役割を考えて行動できる。 （規律性） 遅刻、無断欠席をなど学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。欠席した場合は欠席届を提出し、フォローアップ課題を行う。 （ストレスコントロール力） ストレスを抱え込まず、周りの人に相談できる。		
		②	✓					
		③	✓					
		④	✓					
		⑤	✓					
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
①時間割に充てられた以外にも積極的にゼミ活動を行うことができる。②ゼミ活動で取り上げるテーマについて事前に調べ、グループ討議では、自分の意見を積極的に発表し、意見をまとめることができる。③ゼミ活動を通し、常に自分の学びを振り返り、次の目標をもつことが身についている。④レシピ集の制作に積極的に参加し、表紙やあとがきなどを分担し、よりよい作品に仕上げるよう努力できる。⑤レシピコンテストに参加して入賞するなど、積極的にゼミ活動を行う。 S（秀）＝①＋②＋③＋④または⑤、A（優）＝①＋②＋③	①時間割に充てられた以外にも積極的にゼミ活動を行うことができる。②ゼミ活動で取り上げるテーマについて事前に調べ、グループ討議では、自分の意見を発表することができる。③レシピ集の制作に参加し、よりよい作品に仕上げるよう努力できる。 B（良）＝①＋②＋③、C（可）＝①＋②

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	食物アレルギーの代替食について学ぶ。 三大アレルゲンを除去したレシピを作成する（講義で獲得した知識を活用し、食物アレルギーの食事の問題点を見出し、食物アレルギーがあってもおいしく食べることができるレシピを作成する）	講義 演習 レシピ作成（パソコン使用） 作成したレシピを点検し、フィードバックする	食物アレルギーについて、その特徴と留意点、食事について理解できる。	（復習）三大アレルゲンを除去したレシピを考える。 （Googleclassroomで提出） （予習）調理実習の準備	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 規律性
2.3.4	食物アレルギー対応食のレシピ開発（試作・試食・改善）	実習（グループ） グループ討議 グループ討議後、口頭でフィードバックする。	自分たちで考えたレシピをグループで調理することができる。 自分の役割を理解して行動することができる。	（復習）レシピを作成し、修正する。 （Googleclassroomで提出） （予習）調理実習の準備	270	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 状況把握力 規律性
5	食物アレルギーについて学ぶ 食物アレルギーレシピコンテストに応募する みんな一緒にのクリスマス会の企画	演習 グループワーク プレゼンテーション 応募用紙を点検し、フィードバックする	食物アレルギーレシピコンテストに応募できる。 地域社会の課題を見出すことができる。	（復習）食物アレルギーについてまとめる。 みんな一緒にのクリスマス会に向けて、食物アレルギーの課題を発見する。 （Googleclassroomで提出）	90	主体性 実行力 課題発見力 計画力 発信力 傾聴力 規律性
6.7	学泉祭への出店 学泉祭に模擬店を出店する 何を提供するか、マーケティングから始め、試作を重ね、商品の開発、試作、包装、販売方法、役割分担など検討する。模擬店の運営の計画を立てる	グループ活動 実習後フィードバックする	仲間と協力して、模擬店の商品をつくること ができる 自分の役割を理解し、仲間と協力して模擬店を運営することができる。	（復習）原価等を計算し、レシピを修正する。 検討したことをまとめる。 （Googleclassroomで提出）	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
8	食料自給率について学ぶ 米粉の活用を考える	講義 演習 グループワーク プレゼンテーション 発表後、フィードバックする	総合ゼミナールⅠでの学びを活かし、食料自給率を上げるためにできることを提案できる。	（復習）レシピを作成、修正する。 （Googleclassroomで提出） （予習）調理実習の準備	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 状況把握力
9.10	地産地消、米粉活用のレシピ開発（試作・試食・改善）	実習（グループ） グループ討議 グループ討議後、口頭でフィードバックする	自分たちで考えたレシピをグループで調理することができる。 自分の役割を理解して行動することができる。	（復習）レシピを作成し、修正する。 （Googleclassroomで提出）	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
11.12	食物アレルギーについて みんな一緒にのクリスマス会の企画・準備	演習 実習（グループ） グループ発表後、口頭でフィードバックする。	食物アレルギーのある子もない子も一緒に楽しむことができるクリスマス会の企画を立案することができる。	（復習）みんな一緒にのクリスマス会の企画をまとめる。 （Googleclassroomで提出）	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
13	レシピ集を完成させる 食文化を学び、継承する 年中行事と食文化を学び、献立を作成する	オンデマンドによる講義 パソコンを使用してレシピ集を作成する。 パソコンを使用して、行事食の献立を作成する。 作成した献立、レシピ集を点検しフィードバックする。	日本の年中行事と食文化について理解し、献立を完成させることができる。 ゼミ活動のレシピ集を完成させることができる。	（復習）献立を作成する。 レシピ集を完成させる。 （Googleclassroomで提出）	90	主体性 働きかけ力 実行力 創造力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
14	レシピ開発（試作・試食・改善） 機能性表示食品を使用したレシピ開発 リーフレットの作成	実習（グループ） プレゼンテーション リーフレットの作成 グループ発表後、口頭でフィードバックする。	総合ゼミナールⅠで開発したレシピのリーフレットを作成することができる。	（復習）機能性表示食品のレシピ開発を振り返ることができる。 （Googleclassroomで提出） （予習）調理実習の準備	90	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
15	食文化を学び、継承する 年中行事と食文化を学び、調理する 1年間のまとめ	実習（グループ） グループ討議後、口頭でフィードバックする。	日本の年中行事と食文化について理解し、仲間と協力し、調理実習を行い、写真を撮ってレシピを完成させることができる。	（復習）レシピを完成させる。1年の活動を振り返ることができる。 （Googleclassroomで提出）	90	主体性 実行力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2025年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
31111C	総合ゼミナールⅡ（木村典子）	木村典子			1	必修	2後期
科目の概要							
テーマ「私、地域も、健康になろう」 健康は人生を生き抜いていくために必要不可欠なものです。今日、多くの健康法が論じられています。身体・精神・社会面からホリスティックに人間を捉え、健康について考えてみたいと思います。（DP③） また、多世代との交流の場を設けます。企画、運営、振り返りを通して、計画力を養ってもらいたいと思っています。（②）健康に関することをテーマにして、アンケートや聞き取りを通して、健康について考えていきたいと思います。多くの課題を社会人基礎力の要素を意識し、一つ一つを丁寧に実践、振り返りを通して、また、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神を大切に、ゼミ生、多くの人たちとの交流を通して、特にチームで働く力の修得を目指していきます。（DP①②④⑤） また、健康に関する検定にゼミ生、全員でとりくみ、自分の健康、家族をはじめとした周囲の人たちの健康についてもアドバイスできる能力を養うことを目指します。（DP②③④⑥）							
学修内容				到達目標			
① 健康評価の質問紙などを活用して、自らの健康状態をアセスメントすることを学ぶ ② 生活(生活リズム、食事、排泄、睡眠、活動、環境)と健康の関係を知り、自らの健康管理に結びつけることを学ぶ。 ③ 医療・福祉の現場に出かけ、体験的に現場の現状を学ぶ。 ④ 健康調査、SDGs活動などの活動を振り返り、チームで働く力を身につけ、さまざまな年代の方と接して、健康とライフサイクルを考える。 ⑤ ゼミ活動をまとめ、ゼミ内、学内外、の場で発表し、発信力を養う。 ⑥ 健康管理能力検定2級など、2つ以上の検定に向けて、挑戦をする。				① 健康評価指標をもとに、自らの健康状態を把握し、よりよい状態を保つための健康管理について説明できる。（DP②③④） ② 生活(生活リズム、食事、排泄、睡眠、活動、環境)と健康の関係を知り、自らの健康管理に結びつけ、説明できる。（DP①②③④⑤） ③ 医療・福祉現場の機能と役割について述べるができる。（DP①②③④） ④ 健康調査、SDGs活動などの活動を企画、運営、振り返りを通して、チームで働く力を身につけ、十分に発揮することができる。（DP①②③④⑤⑥） ⑤ 資料を作成して、ゼミ活動を他者にわかりやすく伝えることができる。（DP①②③④⑥） ⑥ 健康管理能力検定などの検定2つ以上挑戦する。（DP②③）			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	自ら、必要な知識についてさらに深めた理解をするために、教科書文献を使って、自己学習ノートを作成できる。時間割内の他の活動にも、積極的に参加できる。					
	働きかけ力	迷ったときや、困ったときに、他のメンバーや教員に助けを求めることができる。					
	実行力	目標(ゼミ活動、検定合格)を設定して、知識習得のために、最後まで、やりぬくことができる。					
考え抜く力	課題発見力	主観的情報、客観的情報を連動させて、課題を考えることができる。思いつきで行動しない。根拠あるデータをさぐることができる。					
	計画力	目標(ゼミ活動、検定合格)を明確にし、計画を立て、チームで共有し、実行し、評価・修正し、次の行動に結びつけることができる。					
	創造力	自己の固定観念にとらわれることなく、文献を活用したり、他者からの意見を取り入れ、考えることができる。					
チームで働く力	発信力	グループで話し合った結果をパワーポイント・資料を作成し、発表原稿を準備し、発表できる。					
	傾聴力	グループワークで、人の意見を確認し、さらに自分の意見が述べることができる。					
	柔軟性	自分と異なる意見や考えを理解し、お互い譲歩できるところみだし、活動につなげることができる。					
	状況把握力	メンバーの行動をみながら、自分の立ち位置を考えて行動できる。					
	規律性	遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。					
	ストレスコントロール力	メンバーとの調整がとれない、計画どおり進まないことがあっても、その原因を分析し、他のメンバーと相談し、前向きに行動することができる。					
テキスト及び参考文献							
テキスト：なし。随時、授業で紹介していく。 参考文献：なし							
他科目との関連、資格との関連							
他科目との関連：なし 資格との関連：なし							
学修上の助言				受講生とのルール			
事前、事後の学習を含め、具体的な事例を用いて解説したり、受講生の体験や意見を求めますので、日々、インターネットや新聞・雑誌等で情報収集に努めて、学習内容を理解するようにして下さい。 事前に課題を出します。次回のグループワークにつながりますので行ってくることを。				講義と文献学習、実践、発表といった形式で進めていきます。学生参画型の授業を進めていこうと考えています。授業では文献検索など、主体的に学習をして、健康について理解を深めていってもらいます。多くの資料を読んでわかったことを自分の言葉で表現できることを求めています。また、授業態度は課題に対して社会人基礎力を培おうとしているか評価します。			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標			各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①		⑥		
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①		⑥		
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		レポート	40	①	✓	⑥	✓	・生活(生活リズム、食事、排泄、睡眠、活動、環境)と健康の関係をまとめ、自己の健康に結びつけている。 ・見学を通して、施設の役割を述べている。 ・活動を通して、接した人達とのコミュニケーションを通して学んだことを文献を踏まえて述べている。 ・ゼミ活動を通して、自己の変化を振り返り、次の目標をもっている。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	50	①	✓	⑥	✓	・pisa型学力 授業で学んだこととともに、SDGs活動、まちづくり活動などの活動を企画、提案をできる。提案した企画を実施し、振り返りをする。これらの過程をわかりやすくパワポイントにまとめ、説明できる。 ・授業の冒頭で、ゼミ活動の進捗状況を確認するために発表を行う。 ・2分間の発表、ランダムに発表者を指定する。 ・注目すべき理由、表現の仕方、説明の明瞭さを評価する。 ゼミ活動について発する機会を学内外で設けるその場で、他者にわかりやすく伝えるための資料を作成し、工夫をして伝えることができる。 「私の家族の健康マニュアル」が作成できる。 文献を活用して、エビデンスの高いデータをもとに、わかりやすく図や表を入れて作成できる。 ゼミの学外での活動、自己学習ノート、検定へとりくみについて評価する。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	⑥	✓	（主体性） 自ら、必要な知識についてさらに深めた理解するために、文献を使って、自己学習ノートを作成できている。ゼミ活動が円滑にすすむための資料を集めることができる。 （働きかけ力） 迷ったときや、困ったときに、他のメンバーや教員に助けを求めることができる。 （実行力） 目標を設定して、知識習得のために、最後まで、やりぬくことができる。 （課題発見力） 資料、教科書からわかったこと、自分の体験したことを、客観的に、連動させて考えることができる。 （計画力） 目標(ゼミ活動、検定合格)を明確にし、計画を立て、チームで共有し、実行し評価・修正し、次の行動に結びつけることができる。 （創造力） 課題を考えるとき、自己の固定観念にとらわれることなく、文献を活用したり、他者からの意見を取り入れ、考えることができる。 （発信力） グループで話し合った結果をパワーポイント・資料を作成し、発表原稿を準備し、発表できている。 （傾聴力） グループワークで、人の意見を確認し、さらに自分の意見がのべることができる。 （柔軟性） 自分と異なる意見や考えを理解し、お互い譲歩できるところみだし、活動につなげることができる。 （状況把握力） メンバーの行動をみながら、自分の立ち位置を考えて、行動できる。 （規律性） 遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動せず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。 欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。 （ストレスコントロール力） メンバーとの調整がとれない、計画どおり進まないことがあっても、その原因を分析し、他のメンバーと相談し、前向きに行動することができる。		
		②	✓					
		③	✓					
		④	✓					
		⑤	✓					
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
秀 1. 自己の健康状態について指標を使い、健康管理方法を考察し、実践し、他者にもアドバイスできる。 2. ゼミ活動を通して、接した人達、ゼミ生とのコミュニケーションを大切にし、自己の変化を振り返り、常に次の目標をもつことが身についている。 3. ゼミ活動を企画・運営していくのに考えて、他のメンバーの意見を取り入れながら行え、タイムマネジメントができる。 4. レポート、作品が期日までにでき、わかりやすく他者に説明することができる。 5. ゼミの時間割外での活動に積極的に参加することができる。 6. 社会人基礎力に関する行動事例が達成できている。 優 1. 自己の健康状態について指標を使い、健康管理方法を考察し、実践し、他者へのアドバイスできる。 2. ゼミ活動を通して、接した人達、ゼミ生とのコミュニケーションを大切にし、自己の変化を振り返り、目標をもつことができる。 3. ゼミ活動を通して、接した人達、ゼミ生とのコミュニケーションを大切にし、自己の変化を振り返り、常に次の目標をもつことが身についている。 4. ゼミ活動を企画・運営していくのに考えて、他のメンバーの意見を取り入れることができる。 5. ゼミの時間割外での活動に参加することができる。 6. 社会人基礎力に関する行動事例が達成できている。	良 1. 自己の健康状態について指標を使い、健康管理方法を考察し、実践しようと努力がわかる。他者へアドバイスするにはかなりのコメントを要する 2. ゼミ活動を通して、接した人達、ゼミ生とのコミュニケーションを大切にし、自己の変化を振り返り、次の目標につなげる行動がとれるようになってきている。 3. ゼミ活動を企画・運営していくのに考えて、他のメンバーの意見を取り入れようとしている努力が伺える。 4. レポート、作品が期日までにでき、他者に説明することができる。 5. 社会人基礎力に関する行動事例が達成しようと努力できる。 可 1. 自己の健康状態について指標を使い、健康管理方法を考察し、実践しようと努力が行動がわかる。他者へアドバイスするにはかなりのコメントを要する 2. ゼミ活動を通して、接した人達、ゼミ生とのコミュニケーションを大切にし、自己の変化を振り返り、次の目標につなげる行動がとれるようになってきている。 3. ゼミ活動を企画・運営していくのに考えて、他のメンバーの意見を取り入れようとしている努力が伺える。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1. 2	学校祭に参加について 検討 生デまちづくりプロ ジェクト	演習 発表	企画、運営、振り返り ができる。	(復習) 企画書の作 成、実施後の振り返り の報告書作成	120	主体性 課題発 見力 発信力 傾聴力 規律性 ストレスコ ント ロール力
3. 4	SDGS活動、まちづくり プロジェクト 認知症カフェに参加の ための企画と準備	演習 協定書に基づく外部と 連携した課題解決型学 習	企画、運営、振り返り ができる。	予習) 学祭に向けて、 より良い品が提供でき るように近隣のスー パーの市場調査ができ る。(復習) 企画書の 作成、実施後の振り返 りの報告書作成	120	主体性 実行力 課題発 見力 発信力 傾聴力 規律性 ストレスコ ント ロール力
5. 6	ゼミ発表に向けて、チー ムで、役割分担を決 め、進める	演習 プレゼンテーション	具体的な行程表が作成 でき、実施するために メンバーと連絡がとれ る。	(予習)案を各自、考え てくる。(復習) 企画 書の作成、実施後の振 り返りの報告書作成	120	主体性 実行力 課題発 見力 発信力 傾聴力 規律性 ストレスコ ント ロール力
7. 8. 9	健康に関する調査を実施し、 統計処理をし、まとめる。 KJ法にて質問紙を作成してい く。 作った質問紙のプレ調査を実 施 修正調査の実施 統計処理 各分担で表、図の作成 発表資料の作成	演習 プレゼンテーション	各自の分担されたデー タ処理し、まとめるこ とができる。	(予習)健康に関する資 料(意中誌)を収集し、 書いてあることをまと める。(復習) 分担さ れたデータ処理し、ま とめ、進捗状況を毎 回、発表し、チームで 話し合いができる資料 を作成する。	120	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 ストレスコ ント ロール力
10. 11	ウォーキングの効用を 調べ、矢作北地域の特 徴を活かしたウォーキ ングマップの作成と ウォーキングの実施	演習 プレゼンテーション	チームで分担し、 ウォーキングマップが 作成できる。 我が家の健康マニユ アルの作成できる。	予習)ウォーキングの 効用、矢作北地域の特 徴を調べる。(復習) チームで分担された資 料を作成する。	120	主体性 実行力 課題発 見力 発信力 傾聴力 規律性
11. 12	我が家の健康マニユ アルの作成 家族の健康状態を客 観的データをもとに分 析する。	プレゼンテーション 演習	具体的な行程表が作成 でき、実施するために メンバーと連絡がとれ る。	(予習) 我が家の健康問題を考 えてくる。 (復習) 我が家の健康マニユ アルの作成する。	120	主体性 実行力 課題発 見力 発信力 傾聴力 規律性
14. 15	健康を保つために ゼミ活動の発表 学生フォーラムなど学 外で、ゼミ活動の成果 を発表	演習	具体的な行程表が作成 でき、実施するために メンバーと連絡がとれ る。	(予習) 一年のゼミ活動を発表 するための資料を収集 する(復習) 一年のゼ ミ活動を振り返り、自 己学習ノートを整理、 作成	120	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	オンデマンド ゼミ発表に向けて、チー ムで、役割分担を決 め、進める。PPと原稿 の作成	オンデマンド	メンバーで決めた分担 のPPを作成できる。	メンバーで決めた分担 のPPを作成できる。		主体性 実行力 計画力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
				(		
					120	

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2025年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
31111D	総合ゼミナールⅡ（河合龍二）	河合龍二			1	必修	2後期
科目の概要							
このゼミは「自己表現力を磨こう」をテーマとする。造形表現・身体表現等、さまざまな分野に挑戦する。その過程で適性や潜在能力に気づき、自らの可能性を広げることをねらいとする。成果物を残し、集約して発表する機会をつくる。（ディプロマ・ポリシー①②③④⑥）							
学修内容			到達目標				
① 多様な造形表現のしかたについて理解を深め、実践する。 ② 多様な身体表現のしかたについて理解を深め、実践する。 ③ 総合ゼミナールⅠの成果を含め、総合表現を工夫し実践する。			① 多様な造形表現のしかたについて理解を深め、実践することができる。（ディプロマ・ポリシー①②③④⑥） ② 多様な身体表現のしかたについて理解を深め、実践することができる。（ディプロマ・ポリシー①②③④⑥） ③ 総合ゼミナールⅠの成果を含め、総合表現を工夫し実践することができる。（ディプロマ・ポリシー①②③④⑥）				
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	授業での対話や実践などに、自ら積極的に取り組むことができる。					
	働きかけ力	自ら得意とする分野に関する知識やスキルを、他に伝授できる。					
	実行力	目標を定め、課題への取り組みを確実に進めていくことができる。					
考え抜く力	課題発見力	さまざまなことにチャレンジする中で、適性や潜在能力に気づき、自らの課題を発見し才能を伸長することができる。					
	計画力	個人またはチームの作品制作について、タイムスケジュールを立てて準備できる。					
	創造力	個人またはチームのテーマについて成果を上げる方策を考え、独自の表現ができる。					
チームで働く力	発信力	ゼミ全体の共通テーマについて、各自の表現スキルを組み合わせ、創造作品あるいは創作劇等の成果発表に貢献できる。その過程で、表現のポイントを踏まえ意図が伝わるように工夫できる。					
	傾聴力	ゼミ活動の重点、他の学生の発表や創作の要点、グループ内の発言を的確につかみ、長所を見抜いて評価できる。					
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性	遅刻、無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。					
	ストレスコントロール力						
テキスト及び参考文献							
テキスト：なし。 参考文献：表現スキルについて、SNS上に先駆者のレクチャー動画が多くある。							
他科目との関連、資格との関連							
他科目との関連：なし 資格との関連：なし							
学修上の助言			受講生とのルール				
学生の主体的活動によって成り立つ講座である。本学が掲げる「三つの挑戦」を体現する。河合は水を向けるものの、予定調和なプログラムを押し付けない。何を表現したいのか、自身に問い続けてほしい。個別最適な学修を目指そう。			恥をかくことが許される学生時代に、自身の才能に気付こう。そのためには、健康とチャレンジ精神とが大切である。自由な対話ができる雰囲気の中で、自らテーマを設定する。個人で活動することも構わない。チームあるいは全体で取り組むことで成果を上げることができるテーマを設定してもよい。				

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
		レポート	30	①	✓			毎回の振り返りシートに、何を学び今の自分に何が足りないか記述する。それを蓄積し、常に自らの学修を調整している。 单元ごとの成果物作成実技・実演について、自ら作成した企画書に沿って積極的に取り組み、まとめができる。
				②	✓			
				③	✓			
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	60	①	✓			作品を創作するにあたり、役割を果たし、pisa型学力を発揮できる。 他との対話を通して、自らの強みと弱みに気づき、課題を解決しようとする意欲や態度を示すことができる。 個人の表現スキルを磨きつつ、その成果が他者の生活を豊かにするものになることが望ましい。
②				✓				
③				✓				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			（主体性）作品づくりや実技に、積極的に取り組むことができる。 （働きかけ力）得意分野の知識やスキルを他へ伝授できる。 （実行力）目標への取組を確実に進めていくことができる。 （課題発見力）調査結果から課題を発見し、解決策を考察する。 （計画力）作業量や作業時間から計画を立てることができる。 （創造力）独自の作品を創作できる。 （発信力）受け取る相手に分かりやすく、作品の意図や改善点を発表できる。 （傾聴力）他の者の話を聞き、課題を考察し、理解を深めることができる。 （規律性）遅刻、無断欠席など学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。	
			②	✓				
			③	✓				
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
Sは、自ら進んで計画的に物事を進め、積極的に実践し、その成果も優れている。個人活動あるいはグループワークで、他者を配慮した心遣いができる。リーダーシップがあり、発表や作品づくりにおいて指導的役割を果たすことができる。 Aは、Sまではいかないが、上記内容をおおむね充足している。	Bは、自ら進んで物事を進め、実践の意欲は感じられ、その成果もまずまずである。個人活動あるいはグループワークで、地道に努力している。リーダーを補佐する役割を果たすことができる。 Cは、上記内容をおおむね充足しているが、積極性に欠ける。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	造形表現①(全5回の学修内容例から選択。あるいは独自創作。)工作、はりぼて、写真、大道具等のアイデア、企画を提案する。	作品創作 造形のねらいを明確にし、製作工程を考える。	作品の企画を提案できる。	(予習) 企画書(案)を提出できるようにしておく。 (復習) 振り返りシートを基に、何が分かったか、何ができるようになったかを確認する。	90	主体性 課題発見力 計画力 創造力 規律性
2	造形表現② 絵画、イラスト、手芸、折り紙、ペーパークラフト、衣装、小道具等のアイデア・企画を提案する。	作品創作 造形表現の多様性について理解し、素材やメッセージを含め、作品を創作する。	作品の企画を提案し、創作に励むことができる。	予習) 作品創作 (復習) 振り返りシートを基に、何が分かったか、何ができるようになったかを確認する。発表の準備をする。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 規律性
3	造形表現③ 絵画、イラスト、手芸、折り紙、ペーパークラフト、衣装、小道具等を創作する。	作品創作 造形表現の多様性について理解し、素材やメッセージを含め、作品を創作する。	作品の創作に励むことができる。	(予習) 発表の準備をしておく。 (復習) 振り返りシートを基に、何が分かったか、何ができるようになったかを確認する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 規律性
4	造形表現④ 華道、茶道、書道、写真、デジタル動画等のアイデア・企画を創作する。	作品創作 造形表現の多様性について理解し、素材やメッセージを含め、作品を創作する。	作品の創作に励むことができる。	(予習) 作品創作 (復習) 振り返りシートを基に、何が分かったか、何ができるようになったかを確認する。発表の準備をする。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 規律性
5	造形表現⑤ 造形表現のまとめ 成果発表・鑑賞会	成果発表会 個人あるいはチームで創作した作品を発表し、相互評価をする。	造形作品を、個人あるいはチームで発表できる。	(予習) 発表の準備をしておく。 (復習) 発表体験を通して何が分かったか、何ができるようになったかを確認する。	90	主体性 働きかけ力 発信力 傾聴力 規律性
6	身体表現①(全5回の学修内容例から選択。あるいは独自創作。)手話、ゼスチャー、パントマイム、演技等について理解し、実践してみる。	作品(実演・動画)創作 身体表現の多様性について理解し、伝える相手にふさわしいメッセージを考え、表現する。得意とする学生が、苦手意識をもつ学生を指導する。	相手に伝わるようにする工夫を提案できる。	(予習) 企画書(案)を提出できるようにしておく。 (復習) 振り返りシートを基に、何が分かったか、何ができるようになったかを確認する。	90	主体性 働きかけ力 課題発見力 計画力 創造力 規律性
7	身体表現② 振付け、創作ダンス、群舞等について理解し、実践してみる。	作品(実演・動画)創作 身体表現の多様性について理解し、伝える相手にふさわしいメッセージを考え、表現する。得意とする学生が、苦手意識をもつ学生を指導する。	相手に伝わるようにする工夫を提案できる。	(予習) 作品創作 (復習) 振り返りシートを基に、何が分かったか、何ができるようになったかを確認する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 規律性
8	身体表現③ SNSで発信する動画等について理解し、実践してみる。	作品(実演・動画)創作 身体表現の多様性について理解し、伝える相手にふさわしいメッセージを考え、表現する。得意とする学生が、苦手意識をもつ学生を指導する。	相手に伝わるようにする工夫を提案できる。	(予習) 作品創作 (復習) 振り返りシートを基に、何が分かったか、何ができるようになったかを確認する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
9	身体表現④ SNSで発信する動画等について理解し、実践してみる。	作品（実演・動画）創作 身体表現の多様性について理解し、伝える相手にふさわしいメッセージを考え、表現する。得意とする学生が、苦手意識をもつ学生を指導する。	相手に伝わるようにする工夫を提案できる。	（予習）作品創作 （復習）振り返りシートを基に、何が分かったか、何ができるようになったかを確認する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 規律性
10	身体表現⑤ 身体表現のまとめ 成果発表・鑑賞会	成果発表会 個人あるいはチームで創作した作品を発表し、相互評価をする。	身体表現の実演あるいは動画を、個人で、あるいはグループで発表できる。	（予習）発表の準備をしておく。 （復習）発表体験を通して何が分かったか、何ができるようになったかを確認する。	90	主体性 働きかけ力 発信力 傾聴力 規律性
11	総合作品（オリジナル作品）創作① 未だ挑戦していない表現、やり残した表現に挑戦する。 企画書作成。	作品（実演・動画）創作 チームあるいは全体で挑戦する場合、役割分担をし、自身のミッションを確認する。	作品の構想や工程を考え、自身のアイデアを発信することができる。	（予習）企画書（案）を提出できるようにしておく。 （復習）振り返りシートを基に、何が分かったか、何ができるようになったかを確認する。	90	主体性 働きかけ力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 規律性
12	総合作品（オリジナル作品）創作② 企画書に沿った準備をする。	作品（実演・動画）創作 自身のミッションを果たす。	工程どおりに準備を進めることができる。	（予習）作品制作 （復習）自身の役割を果たす努力をする。振り返りシートを基に、何が分かったか、何ができるようになったかを確認する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 規律性
13	総合作品（オリジナル作品）創作③ 企画書に沿った準備をする。	作品（実演・動画）創作 自身のミッションを果たす。	工程どおりに準備を進めることができる。	（予習）作品制作 （復習）自身の役割を果たす努力をする。振り返りシートを基に、何が分かったか、何ができるようになったかを確認する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 規律性
14	オンデマンド ゼミ活動（1年間）の振り返り 卒業後の創作活動への意欲喚起	視聴とレポート提出 「生涯学習の充実～私が挑戦したいこと～」をテーマとする。	期限を守ってレポートを提出できる。 的確な自己評価をしている。 自身の生涯学習を充実させる意欲が見られる。	（復習）これまでを振り返って、何が分かったか、何ができるようになったかを確認する。 卒業後の創作活動について、自ら問いを立てる。	90	主体性 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	総合作品（オリジナル作品）創作⑤ 総合表現（オリジナル表現）のまとめ 成果発表・鑑賞会	成果発表会 個人、チームあるいは全体で創作した作品を発表し、相互評価をする。	成果を、個人、チームあるいは全体で発表できる。	（予習）発表の準備をしておく。 （復習）発表体験を通して何が分かったか、何ができるようになったかを確認する。	90	主体性 働きかけ力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2025年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
31111E	総合ゼミナールⅡ（鈴木尊士）	鈴木尊士			1	必修	2後期
科目の概要							
このゼミは、観光の現場に着目した実践的な学びを重視する。マーケティング、経営学、経済学、工学、心理学、景観論といった学問分野の視点から、観光とビジネス、観光と地域づくり、また観光の果たす役割について自ら調べ学び成果物を形にし、発表する機会を作る。世界に進出しても恥じないためにも「建学の精神」、「社会人基礎力」「pisa型学力」を学修する。この授業は、ディプロマ・ポリシーの①④⑥に相当する。これらを身に付けるために行う。							
学修内容			到達目標				
① 岡崎の観光について理解する ② 日本の観光政策について調査し、分析する。 ③ 世界の文化や歴史を知る ④ グループワークを行う際に協力し作業をする			① 岡崎の歴史について理解し自分の言葉で説明できる。（ディプロマ・ポリシー①④⑥に相当する） ② 観光立国としての現状について明快に理解人に伝えることができる。（ディプロマ・ポリシー②⑥に相当する） ③ 世界の異なる文化や歴史の大切さを理解し説明できる。（ディプロマ・ポリシー④⑥に相当する） ④ 周りに配慮し協調性をもって人と接する事ができる。（ディプロマ・ポリシー①④⑥に相当する）				
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	観光について情報を積極的に収集し、興味関心をもって、自己学修をすることができる。					
	働きかけ力						
	実行力	自ら設定した目標に向けて、知識を得て、問題解決に向けて諦めることなく最後まで一生懸命に努力することができる。					
考え抜く力	課題発見力	日常生活において観光に関わる事を発見し疑問を持つことができる。					
	計画力	旅行の計画を作成する際に、時間内に作業を進めるために手順をしっかりと考え行動することができる。					
	創造力	固定概念にとらわれず、自らの知識や調べた情報を活用し自分の物にすることができる。					
チームで働く力	発信力	自分の意見を相手にわかりやすく説明、発表することができる。					
	傾聴力	チームで活動する際など、自分の意見を言うだけでなく相手の意見にも耳を傾けることができる。					
	柔軟性	一度立てた計画でも必要に応じて柔軟に変更をすることができる。					
	状況把握力						
	規律性	遅刻や無断欠席をすることなく、学修することに意欲を出し、授業が円滑に進むようにルールを守ることができる。					
	ストレスコントロール力						
テキスト及び参考文献							
テキスト：プリント配布 参考文献：なし							
他科目との関連、資格との関連							
国際理解、アジアの文化と社会							
学修上の助言			受講生とのルール				
普段から世界や観光に関する情報を積極的に見つけるようにしてください。 世界は目まぐるしく変化しています。 情報収集に新聞、テレビ、インターネット、図書館などを活用することを推奨します。			楽しく活気のある授業にするためにも遅刻、無断欠席はやめよう。 恥ずかしがらずに、積極的に自らを出し、いろんなことにチャレンジしていこう。				

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
		レポート	10	①	✓			・授業で学習した内容の理解度を自らの言葉で記述することができる。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	80	①	✓			・実際に観光地へ行くことが現実的には難しいため、架空で自らが旅行プランナーになり、設定、計画を考えた上で観光ガイドも行うことができる。 ・ほかの人とは違ったオリジナリティを旅行計画に含め発表することができる。 授業を通してpisa型学力、社会人基礎力を発揮することができる。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			主体性：観光について情報を積極的に収集し、興味関心をもって、自己学修をすることができる。 実行力：自ら設定した目標に向けて、知識を得て、問題解決に向けて諦めることなく最後まで一生懸命に努力することができる。 課題発見力：日常生活において観光に関わる事を発見し疑問を持つことができる。 計画力：旅行の計画を作成する際に、時間内に作業を進めるために手順をしっかりと考え行動することができる。 創造力：固定概念にとらわれず、自らの知識や調べた情報を活用し自分の物にすることができる。 発信力：自分の意見を相手にわかりやすく説明、発表することができる。 傾聴力：チームで活動する際など、自分の意見を言うだけでなく相手の意見にも耳を傾けることができる。 柔軟性：一度立てた計画でも必要に応じて柔軟に変更をすることができる。 規律性：遅刻、無断欠席など学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。欠席した場合は欠席届を提出し、フォローアップレポート課題を行う。		
		②	✓					
		③	✓					
		④	✓					
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
S-自ら積極的に進んで計画的に物事を進め、チームの活動及び自らの課題に一生懸命取り組むことができる。完成度の高くオリジナリティのある作品ができる。 A-自ら進んで計画的に物事を進め、チームの活動及び自らの課題に一生懸命取り組むことができる。オリジナリティのある作品ができる。	B-計画的に物事を進め、チームの活動及び自らの課題に一生懸命取り組むことができる。オリジナリティのある作品ができる。 C-計画的に物事を進め、チームの活動及び自らの課題に一生懸命取り組むことができる。作業時間内に作品ができる。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	後期のゼミ活動について理解する	講義 後期のスケジュールを全員で確認 口頭質問	後期のゼミではどのようなことに挑戦したいかまとめることができる。	(復習) 後期のゼミで挑戦したいことをまとめる。 (予習) 学泉祭でどのようなお店を出したいか調べてくる。	90	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性
2・3	学泉祭に向けて計画を立てる	講義 演習 学泉祭に向けて計画を立てる グループごとに計画、立案をする	グループに分かれて決められた作業、計画を立てることができる。	(復習) 学泉祭に向けて準備をする (予習) 報告書作成に向けて世界の観光地を調べる	90	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性
4・5	最終ゼミ報告書(旅行計画書)の概要説明、作成に向けて準備をする	演習 計画案を作成	最終ゼミ報告書の書き方、資料収集の方法を理解できる	(予習)(復習) PCや図書館を使用して各自興味のある国や観光地について調査する。	90	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力
6	最終ゼミ報告書(旅行計画書)の資料収集と相談	演習 各自が活動 質疑応答	図書館や情報処理室を利用し、最終ゼミ報告書(旅行計画書)作成のための資料収集を行うことができる。	(復習) 各自、テーマを一つに絞る。 (予習) 最終ゼミ報告書(旅行計画書)の作成を進める	90	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力
8・9	各自最終ゼミ報告書(旅行計画書)の作成	演習 各自が最終ゼミ報告書(旅行計画書)の作成を進める 質疑応答	図書館や情報処理室を利用し資料を収集し最終ゼミ報告書(旅行計画書)の作成をすすめることができる。	(予習)(復習) 最終ゼミ報告書(旅行計画書)の作成を進める	90	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力
10・11	各自最終ゼミ報告書(旅行計画書)の作成	演習 各自が最終ゼミ報告書(旅行計画書)の作成を進める 質疑応答	図書館や情報処理室を利用し資料を収集し最終ゼミ報告書(旅行計画書)の作成をすすめることができる。	(予習)(復習) 最終ゼミ報告書(旅行計画書)の作成を進める	90	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力
12	最終ゼミ報告書の第一次提出経過の報告	プレゼンテーション 口頭質問 フィードバック	最終ゼミ報告書(旅行計画書)の一次提出をすることができる。	最終ゼミ報告書の作成と修正	90	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力
13	ゼミの報告書(旅行計画書)の修正と最終提出をするとともに最終発表の準備をする	演習 各自活動をする フィードバック	最終ゼミ報告書の修正を行い最終提出ができる。	(予習) ゼミの発表の準備をする	90	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
14	ゼミ活動のまとめ	演習 ゼミ発表会で報告をする。	完成したゼミの報告書(旅行計画書)をもとに1年間学修したことを発表することができる	(復習)発表の反省をする	90	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力
15	ゼミ活動のまとめ	演習 ゼミ発表会で報告をする。	総復習をすることができる	1年かを振り返り完成したゼミの報告書(旅行計画書)をもとに1年間学修してきたことを総復習する	90	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力
7	最終ゼミ報告書(旅行計画書)の資料収集と相談	オンデマンド 演習 各自が活動	図書館や情報処理室を利用し、最終ゼミ報告書(旅行計画書)作成のための資料収集を行うことができる。	(復習)各自、テーマを一つに絞る。 (予習)最終ゼミ報告書(旅行計画書)の作成を進める		主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2025年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
31111F	総合ゼミナールⅡ（長谷川えり子） Seminar (Fashion Produce)	長谷川えり子			1	必修	2後期

科目の概要

テーマ：「ファッションプロデュース」
ファッションを通して、様々な視点から物事をとらえ、社会人として自立するための人間力を養っていく。ファッション業界（アパレル、ブライダル、ビューティーなど）の動向をとらえ、トレンドを分析する。また、ファッションビジネスプロジェクトとして、アクセサリショップの出店、全国販売に向けたアクセサリの商品化を行い、企画、制作、販売能力を育成する。ゼミ活動を通して、様々なファッションシーンに体得することでファッション感覚を磨き、楽しみながらファッションセンスを向上させる。（③④に相当する）また、プロジェクト活動の場面で建学の四大精神を実践し、社会人基礎力を発揮し、これまで獲得してきた知識を活用して、課題解決に結びつけ、自らの可能性を伸ばしていく。（④⑥に相当する）

学修内容	到達目標
① プロジェクト①全国販売されるアクセサリの商品化を目指し、産学連携活動に取り組む。 ② プロジェクト②学外、大学祭において、アクセサリショップを出店し、商品を企画、制作、販売する。 ③ プロジェクト④ファッションショーにて、ゼミ活動の成果を発表する。	① これまでに獲得したスキルを活かして、市場で売れるアクセサリをデザインし企業側に提案することができる。DP③④⑥ ② これまでに獲得したスキルを活かして、企画力、制作、販売スキル発揮し、ショップを運営することができる。DP③④⑥ ③ これまでに獲得したスキルを活かして、ファッションシーンに適したスタイルをデザイン、製作し、トータルファッション提案ができる。DP③④

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	ファッショントレンド情報を積極的にキャッチし、ファッション業界の商品のながれや動向を捉える。
	働きかけ力	
	実行力	ファッションプロジェクトをチームで協力して進め、実行することができる。
考え抜く力	課題発見力	ファッションプロジェクトを進める中で、目標を達成するための問題点を考えながら取り組む。
	計画力	ファッションプロジェクトを進める中で、達成目標に対してスケジュールを計画し、途中で点検しながら実行する。
	創造力	自分の好きなファッションだけでなく、様々なファッションスタイルを通して、新しい発想のもとアイデアを提案する。
チームで働く力	発信力	ファッショントレンドをとらえ、分析し、シーンに合わせた提案ができる。
	傾聴力	チーム活動では、周りの人の意見を十分に聞きながら行動する。
	柔軟性	チーム活動では、お互いに思いやり、意見の相違があった場合でも理解し合って進めていく。
	状況把握力	
	規律性	遅刻無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：なし 教員作成の資料により進める。
参考文献：MODE et MODE

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：ファッションコーディネート演習、ファッションアクセサリーズ、ショッププロデュース、アパレルCAD、アパレル商品論
資格との関連：なし

学修上の助言	受講生とのルール
普段からファッションに興味を持ち、様々なメディアを通して情報に触れよう。また、ファッション販売の現場にも出向き、トレンドを捉え、消費者の動向を観察しよう。	ゼミ活動を通して、ゼミ生相互の親睦をはかり、協調性を身につけ、お互いに成長できるように、目標に向かって努力しよう。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
		レポート	0	①				
				②				
				③				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	90	①	✓			・全国販売するアクセサリーの商品化を目指して、商品の企画、プレゼンテーションを行う。 ➢PPによるプレゼンテーションでは、商品のポイントをわかりやすく、魅力的に発信することができているかを評価する。これまで学んできた知識を活用して、新しい商品の提案を行うために、想定される課題の解決方法を含める。 ・アクセサリ作品を制作し、販売する。 ➢ファッショントレンドをとらえ、季節、スタイルに合った作品を評価する。 細部にわたって、丁寧に制作できているかを確認する。 制作したアクセサリは1点1点仕上りを教員が確認する。不備な点は修正する。 ・ファッションショーで作品を発表する。 ➢ファッショントレンドを反映し、自己表現としてオリジナリティ溢れたファッションスタイルを評価する。 ➢2年間の集大成として、これまで獲得した知識を活用し、自分の作品（課題）を創り上げる能力を養い、テーマを表現した作品を発表する。
				②	✓			
				③	✓			
	学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			(主体性) ファッショントレンド情報を積極的にとらえ活かされているかを作品（アクセサリ、衣裳）で評価する。 (実行力) チームで協力して進めることができているか、報告書より評価する。 (課題発見力) 目標を達成するための問題点を考えながら取り組むことができたかを報告書より評価する。 (計画力) 達成目標に対してスケジュールを途中で点検しながら実行できたかを判断する。 (創造力) 様々なファッションスタイルに刺激を受け、新しい発想のもとアイデアが提案できたを作品により評価する。 (発信力) チーム活動では自分の意見をわかりやすく伝えることができたか、活動状況を通して評価する。 (傾聴力) チーム活動では、周りの意見をしっかりと聞きながら行動できたか、活動状況を通して評価する。 (規律性) 遅刻、無断欠席など学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる 欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。
				②	✓			
				③	✓			
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	後期授業の進め方について 前期ゼミ活動を振り返り、後期の取り組み方の説明、目標設定を行う。	講義、演習 ゼミのプロジェクト活動を確認し、今後の進め方について話し合う。	ゼミの活動を振り返り、後期の目標を設定することができる	(予習) シラバスを読み、後ろの内容をとらえる。 (復習) ゼミ活動での個人目標を設定する。	60	実行力 計画力 傾聴力
2～4	ファッションビジネスプロジェクト⑤ (アクセサリショップ) アクセサリショップで販売するアイテムのデザインをPCを活用して情報収集して考え、制作する。	演習、グループワーク 教員説明後、チーム活動商品を作成する。商品は教員が点検し、フィードバックする。	秋季に出展するアクセサリショップの商品が制作ができる。	(予習) アクセサリーの制作の内容を考える。 (復習) アクセサリー制作と修正を行う。	60	主体性 実行力 創造力 発信力
5, 6	ショップ出店準備 ブランドコンセプトにそった商品を売れるためのデザインし、制作する。	実習、討議 (ディスプレイ) 教員説明後、討議し、役割分担し、商品の制作などの出店準備を行う。PCを活用して情報収集して提案を行う。	店舗ディスプレイの実際を考え、各アイテムを陳列できる。	(予習) Shopを訪問し、ディスプレイ、POPを観察する。 (復習) POPの修正と制作を行う。	60	主体性 課題発見力 計画力
7	ショップ出店振り返り ショップ出店後の商品の販売状況をまとめ、	実習、グループワーク 教員説明後、チーム活動で、販売した商品を検証する。販売動向をまとめ、販売業務の課題分析を行う。	販売状況を把握し、課題を抽出することができる。		60	課題発見力 規律性
8	ファッションショー企画 今季のトレンドを活かし、テーマ、制作作品を考える。 ・トレンド分析 ・デザインワーク	演習、討議 (ディスプレイ) 教員説明後、全体でテーマ、担当を話し合う。PCを活用して情報収集してデザインワークを行う。	ファッションショー実施に向けて、企画案を練り、制作するファッションスタイルを検討できる。	(予習) コレクションを鑑賞する。 (復習) 制作するデザインを考え、制作手順を計画する。	60	主体性 創造力 発信力
9	ファッションショー作品材料検討、収集 ファッションショーで発表する作品を表現するための材料を検討し、収集する。	演習 (学外研修) 材料を販売している店舗を訪問し、デザインに合わせた布地、デコレートアイテム、縫製用糸などの収集を行う。	作品を制作するための材料を検討し、準備することができる。	(予習) 材料の種類を調査し、必要な要尺を計算する。 (復習) 購入した商品を整理し、使用できるように地直し、分類を行う。	60	主体性 実行力 創造力 規律性
15	ファッションショーアイテム制作 各自作品制作を行う。 ・材料選定 ・裁断、印付け ・縫製 ・仕上げ ・装飾	実習、制作 発表する衣裳を制作実習する。制作途中で教員が点検 (フィードバック) しながら、完成させる。	ファッションショー作品を制作できる。(衣裳、アクセサリ)	(予習) 本日の作業の確認を行い、制作内容を計画する。 (復習) 衣裳制作を進める。	60	主体性 実行力 創造力 傾聴力
10～14	ファッションショー演出企画 ファッションショー作品のコンセプト、ステージでの音楽、フォーメーションの検討	演習 (オンデマンド) 先輩たちのファッションショーの動画を視聴し、ショー演出を検討する。ファッションショー作品のコンセプトをまとめる。作品披露の際に使用する音楽を検討し、1曲提案する。ステージにおける作品披露のためのフォーメーションを考え、提案する。これらの内容をclassroomにアップする。	作品コンセプト、使用音楽を提案することができる。	(予習) パリコレ、ミラノコレクションを鑑賞して、ファッションショーの演出を学ぶ。 (復習) ステージをイメージして音楽に合わせてウォーキングを試す。	60	創造力 発信力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2025年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
31111G	総合ゼミナールⅡ（杉浦菜穂子） Synthesis Seminar	杉浦菜穂子			1	必修	2後期
科目の概要							
テーマ：「ファッションクリエイティブデザイナー＝ファッションを通してできることを考える」 被服製作・ファッションについての専門的な知識を修得します。専門知識を活用し、ファッションの力で出来ることを考案、地域貢献活動を実践しアパレル業界の問題解決を目指します。CO ₂ 排出量の増加による地球温暖化が社会問題としてクローズアップされるなか、世界2位の環境汚染産業といわれるアパレル業界においてSDGsを意識した被服製作活動は必須条件です。ジェンダーフリー、ジェネレーションフリーでトレンドを捉えたデザインとはなにかを考え、障がいのある方でも若者でも高齢者でも、だれでも着られる、着やすい作品を創造します。人間の体は一人ひとり違います。個性を大切にしたファッションとは何かを考え、研究していきます。また、ファッションショーに向け「私が1番輝く服」をテーマにデザインし、SDGsを意識した製作活動を進めます。洋裁の基本はもとより、ショー作品を製作することによって、より専門的で高度な洋裁技術を体得します。ゼミ活動を通して建学の精神を実践し、社会人基礎力を身に付け、製作したショー作品を着装して発表することにより、潜在能力の開発を目指していきます。ショー作品製作では獲得した知識を活用し、デザイン画に沿った作品になるよう課題解決を行います。これはディプロマポリシーの①②④⑤に相当し、これらを身に付けるために行います。							
学修内容				到達目標			
① 被服製作の専門的知識を学び、ショー作品を製作する。 ② ファッション環境について市場調査し、分析する。 ③ ファッショントレンドを捉えてデザイン画を描き、製作する。製作したショー作品は、着装して発表する。				① 被服製作の専門的知識を学び、ショー作品を製作することができる。これはディプロマポリシーの①と②に相当し、これらを身に付けるために行います。 ② SDGsに基づき、サステイナブルなファッションデザイン画を作成することができる。これはディプロマポリシーの①と④に相当し、これらを身に付けるために行います。 ③ 製作した作品をトータルコーディネートして着装し、ファッションショーで発表することにより潜在能力を伸ばすことができる。これはディプロマポリシーの⑤に相当し、これらを身に付けるために行います。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	ファッションについて情報を積極的に収集し、様々なスタイル傾向を捉える。教員が提示する社会人基礎力を授業で意識して受講することができる。					
	働きかけ力						
	実行力	自ら立てた目標達成に向けて、具体的に行動することができる。					
考え抜く力	課題発見力	トレンドを分析し、着用するうえでの問題点を考えながらデザインを行うことができる。縫製方法を工夫することができる。					
	計画力						
	創造力	環境に配慮し、個々に寄り添い対応したサステイナブルファッションを考え、新しいファッションスタイルを提案することができる。					
チームで働く力	発信力	発表会では、自分の意見をわかりやすく伝えることができる。自身の作品を表現することができる。					
	傾聴力	チーム活動では互いの考えをディベートし、製作や研究に活かすことができる。					
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性	遅刻、無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。					
	ストレスコントロール力						
テキスト及び参考文献							
テキスト：プリント配布 参考文献：なし							
他科目との関連、資格との関連							
他科目との関連：ファッション造形、やさしいソーイング、アパレルパターンメイキング、コスチュームデザイン 資格との関連：なし							
学修上の助言				受講生とのルール			
ファッションを通じて社会情勢に関心を持ちましょう。ゼミ活動を通じて四大精神を実践し社会人基礎力を身に付け、1年で確かな成長を目指しましょう。洋裁の技術修得には時間がかかりますが、こつこつと努力を重ね身に付けていきましょう。				欠席せず、時間、ルール、提出物期限を厳守する。提出物に不備がないかを提出前に確認し、丁寧に仕上げること。携帯電話の電源は切り、鞆に入れておくこと。			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
		レポート	0	①				
				②				
				③				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	90	①	✓			自らデザインし、作品を製作・発表する。 ・オリジナリティーに溢れ、個々に合った作品かを評価する。 ・細部まで丁寧に製作できているかを評価する。 ・製作の過程で問題が発生した際に、これまでの知識を活用して縫製方法を工夫しているか評価する。 （特に優れて高い：S、優れて高い：A、完成しており問題ない：B、完成しているが着用の問題あり：C）
				②	✓			
				③	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			主体性：ファッションについての情報を積極的に捉え、デザインに活かすことができる。 実行力：ファッションと社会の動向を捉え、製作作品で表現できる。 課題発見力：目標を達成するための問題点を考えながら取り組むことができる。 創造力：様々なファッションスタイルに刺激を受け、新しい発想のもとアイデアが提案できる。 発信力：発表会では自分の意見をわかりやすく伝えることができる。 傾聴力：チーム活動では、他者の意見をしっかりと聞き、製作に活かすことができる。 規律性：遅刻、無断欠席など学習意欲を欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。欠席した場合は欠席届を提出し、フォロー課題を行う。	
			②	✓				
			③	✓				
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
到達レベルS 下記に加えて、チーム活動において、自分の意見をしっかり発信し、統率力を発揮することができる。作品制作では、完成度の高い構成で表現されオリジナリティがある。 到達レベルA 作品制作に対して一生懸命に取り組み、デザイン性に優れた完成度の高い作品として仕上がっている。	到達レベルB 自分でデザインし、作品を制作することができる。 到達レベルC 上記の内容に対して、提出物の遅延・不備がある。プロジェクト活動に対して意欲的な姿勢がみられない。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	学泉祭ショー作品を製作する。 縫製を行う。	演習 作品を製作する。 提出物を点検し、 フィードバックする。	縫製計画を立て、目標 を達成できる。	(予習) 縫製予定まで 進めてくる。 (復習) 縫製の不備を 手直しする。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力
2	学泉祭ショー作品を製作する。 縫製を行う。	演習 作品を製作する。 提出物を点検し、 フィードバックする。	縫製計画を立て、目標 を達成できる。	(予習) 縫製予定まで 進めてくる。 (復習) 縫製の不備を 手直しする。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力
3	学泉祭ショー作品を製作する。 縫製を行う。	演習 作品を製作する。 提出物を点検し、 フィードバックする。	縫製計画を立て、目標 を達成できる。	(予習) 縫製予定まで 進めてくる。 (復習) 縫製の不備を 手直しする。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力
4	学泉祭ショー作品を製作する。 縫製を行う。	演習 作品を製作する。 提出物を点検し、 フィードバックする。	縫製計画を立て、目標 を達成できる。	(予習) 縫製予定まで 進めてくる。 (復習) 縫製の不備を 手直しする。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力
5	学泉祭ショー作品を製作する。 縫製を行う。 小物を制作する。	演習 教員の説明後、トータル コーディネートを考え、小物を制作する。	作品を完成させる。発表 作品をトータルコーディネート した小物を制作し、効果的な発表 方法を考えることができる。	(予習) ヘッドアクセサ リー・アクセサリー・ シューズのデザイン収集。 材料準備。 (復習) 発表作品・小物の 仕上げと点検をし、不備が ないかチェックする。作品 に改善点があれば直しを行 い、完成させる。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力
6	卒業ファッション ショーテーマ考案 卒業ファッション ショーのテーマを考案 する。	講義・グループワーク 教員が昨年の卒業 ファッションショーに ついて説明後、各自 テーマ考案。提出物 (各自考案したテーマ) を点検し、フィード バックする。	卒業ファッション ショーの主旨について 理解し、テーマを考案 することができる。	(予習) 卒業ファッ ションショーテーマを 考えてくる。 (復習) 他者の意見を 聞き、卒業ファッショ ンショーテーマにふさ わしいものを考える。 卒業作品デザイン画考 案。	90	主体性 創造力 規律性
7	卒業作品製作 デザイン画を作成す る。 デザイン、着色し、背 景、全体の仕上がり、 素材を考える。	演習 教員がデザイン画につ いて説明後、各自デザ イン画の着色を行う。 提出物(D画)を点検 し、フィードバックす る。	デザイン画に着色し、 背景・全体を仕上げる ことができる。	(予習) 着色画材を何 パターンか用意してく る。 (復習) デザイン画を 着色し、完成させる。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力
8	卒業作品製作 パターンメイキング 布購入準備・素材研究 作品の素材研究・手工 程の考案を行う。	演習 教員がパターンメイキ ング・素材について説 明後、製図する。素材 について調べ、手工 程を考案し、試作する。	パターンメイキングが できる。 デザイン画に合った素 材を理解し、手工程を 考案することができ る。	(予習) 素材・手工 程について調べる。 (復習) 布の使用量に ついて調べる。	90	主体性 実行力 傾聴力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
9	卒業作品製作 パターン展開、仮縫い を行う。	演習 教員がパターン展開に ついて説明後、各自展 開を行う。提出物を点 検し、フィードバック する。	パターンを展開するこ とができる。仮縫い用 布を裁断することがで きる。	(予習) 仮縫い用布を 準備する。 (復習) 仮縫いをして くる。	90	主体性 実行力 傾聴力
10	卒業作品製作 試着・補正を行う。	演習 教員が試着・補正につ いて説明後、各自試 着・補正を行う。 提出物を点検し、 フィードバックする。	仮縫いの試着・補正を 行うことができる。	(予習) 仮縫いをして くる。 (復習) 布を購入し、 地直しをしてくる。	90	主体性 実行力 傾聴力
11	針供養	演習 教員が針供養の意義に ついて説明後、供養、 埋針を行う。	針供養の意義について 理解し、レポート作成 できる。	(予習) 針供養につい て調べてくる。 (復習) 針供養・四大 精神についてまとめ、 レポートを作成。	90	主体性 実行力 規律性
12	卒業作品製作 本番用布の裁断を行 う。	演習 教員が裁断方法・縫い 代について説明後、各 自裁断を行う。裁断さ れた本番用布を点検 し、フィードバックす る。	本番用布の縫製方法を 考慮し、縫い代をつけ 裁断することができ る。	(予習) 縫製計画を立 てる。 (復習) 縫製予定まで 進めてくる。	90	主体性 実行力 傾聴力
13	卒業作品製作 縫製を行う。	演習 教員が縫製方法につい て説明後、各自縫製を 行う。提出物を点検 し、フィードバックす る。	縫製計画を立て、目標 を達成できる。	(予習) 手工程を考案 し、試作してくる。 (復習) 縫製予定まで 進め完成を目指す。	90	主体性 実行力 課題発 見力 創造力
14	作品・成果発表会（オ ンデマンド） ゼミ活動のまとめ クラスルームを使用し て他作品を鑑賞し、自 己作品の分析と1年間の ゼミ活動の活動を振り 返し、卒業後の目標設 定を行う。	演習 オンデマンド クラスルームにあげら れた他作品画像と作品 説明をみて分析し、レ ポートにまとめ、クラ スルームに提出する。 提出物を点検し、 フィードバックする。	卒業作品を発表し、ゼミ活 動の総まとめのレポートを 作成することができる。 自作品、他作品のデザイ ン、縫製方法、ディタイ ルの長所や短所を分析し、 レポートにまとめ、クラ スルームに課題提出するこ とができる。	(予習) 卒業作品の解 説書を作成し、クラ スルームに課題提出す る。 (復習) 発表の反省と ゼミ活動を振り返りま とめたレポートを作成 し、クラスルームに課 題提出する。	90	主体性 課題発 見力 発信力
15	卒業作品製作 糸の始末、アイロン、 仕上げを行う。	演習 教員が縫製方法につい て説明後、各自縫製を 行う。提出物（発表作 品）を点検し、フィ ードバックする。	縫製計画に沿って作品 を仕上げ、完成させる ことができる。	(予習) ヘッドアクセサ リー・アクセサリー・ シューズのデザイン収集。 材料準備。発表作品の仕上 げ。 (復習) 発表作品・小物の 仕上げと点検をし、不備が ないかチェックする。作品 に改善点があれば直しを行 い、完成させる。	90	主体性 実行力 課題発 見力 創造力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2025年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
31111H	総合ゼミナールⅡ（古橋敬一）	古橋敬一		基礎	1	必修	2後期
科目の概要							
テーマ：「その声を聞いてみる」							
このゼミは、このエリアで暮らし働いている、あるいは皆さんの関心があるテーマに近い仕事をしている人々に対する聞き書きを軸にした活動を展開していきます。聞き書きは、フィールドワークにおける調査手法の一つですが、それ自体に底知れない魅力があります。このゼミでは、その魅力を追究しながら、人の生き方や働き方について、またそれらが統合して生まれる地域社会や文化とは何かを考えていきます。正解は一つではなく、それに主体的に取り組む皆さんの数だけ生まれていくでしょう。 また、このゼミでは、創立者が教育信条としてうたった潜在能力の無限性を信じ、その潜在能力を可能性の限界まで引き出すことを目指し、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神を実践し、多くの人たちとの交流を通して、社会人基礎力の習得に挑戦します。地域社会の中にある、さまざまな魅力や課題を発見し、それらの活用や課題を考えていく実践していく姿勢が、これからの社会人には求められています。皆さんの中にある潜在的な可能性が大きく開花することを楽しみにしています。 聞き書きの対象は、さまざまな人々を想定していますが、1つみなさんと共通してやってみたいと考えていることは、ゼミナールの皆さんが、聞いてみたい、あるいは興味のある職種の人たちへの仕事インタビューです。これは、皆さんのためにもなるし、その成果はみなさんに続く後輩の方々を始め、いろいろな人々にとっての道しるべになるでしょう。まちづくりのフィールドでの経験から聞き書きの魅力や手法を解説し、皆さんのインタビュー実践をサポートします。 人を通して社会を知り、そうした社会を考察して自分自身を知る。そんな活動を皆さんとじっくりと歩んでみたいと考えています。このゼミの取り組みは、ディプロマポリシー（以下、DP）の①～⑥に相当します。これらを身に付けるために行います。							
学修内容				到達目標			
① 聞き書きによる作品を考察する。 ② フィールドワークにおけるインタビューの作法と手法を学ぶ。 ③ インタビュー原稿の書き方を学ぶ。 ④ フィールドワークにおける聞き書きの活かし方を探究する。 ⑤ ゼミナール活動をまとめて発表し、発信する。				① 聞き書きによって制作されたいくつかの作品の意義や価値を理解し、自分なりに説明できる。（DP①④） ② フィールドワークにおいて臆さずインタビューを実施することができる。（DP③） ③ アウトプットのケースに応じ、インタビュー原稿を適切に書き起こすことができる。（DP④⑤） ④ フィールドワークにおける聞き書きの有意義な可能性を示すことができる。（DP②④⑤） ⑤ 資料を作成し、ゼミナール活動を他者にわかりやすく伝えることができる。（DP⑥）			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	自ら、必要な知識についてさらに深めた理解をするために、参考文献を調査し、自己研鑽ノートを作成できる。時間割内の他の活動にも、積極的に参加できる。					
	働きかけ力	障壁を乗り越えるために、他のメンバーや教員に助けを求めることができる。					
	実行力	目標を設定して、知識を獲得・活用し、課題解決に向けて最後まで行動し、努力を尽くすことができる。					
考え抜く力	課題発見力	問題と課題を混同せずを考えることができる。小さくはじめ、トライ＆エラーを重ねながら、考察の精度をあげる取り組みができる。					
	計画力	目標を明確にし、計画を立て、チームで共有し、実行し、評価・修正し、次の行動に結びつけることができる。					
	創造力	既成概念や固定観念にとらわれず自由に発想し、他者からの意見も柔軟に取り入れることができる。					
チームで働く力	発信力	グループで話し合った結果をまとめ、TP0に合わせて適切なメディアを選んで発表することができる。					
	傾聴力	積極的受動性の意味を理解し、人の話を真摯に耳を傾けることができる。					
	柔軟性	自分と異なる意見や考えを理解しようとする寛容性を磨き、物腰柔らかに対応することができる。					
	状況把握力	メンバーの行動をみながら、自分の立ち位置や次の展開を考えて行動できる。					
	規律性	遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動をせず、ゼミ活動が円滑に進行するようルールを守ることができる。欠席した場合は、欠席届を提出し、フォロー課題を行う。					
	ストレスコントロール力	メンバーとの調整がとれない、計画どおり進まないことがあっても、その原因を分析し、他のメンバーと相談し、前向きに行動することができる。					
テキスト及び参考文献							
テキスト：なし。随時、授業で紹介していく。 参考文献：なし							
他科目との関連、資格との関連							
他科目との関連：なし 資格との関連：なし							
学修上の助言				受講生とのルール			
事前、事後の学習を含め、具体的な事例を用いて解説したり、受講生の体験や意見を求めますので、日々、インターネットや新聞・雑誌等で情報収集に努めて、学習内容を理解するようにして下さい。				講義と文献学習、聞き書きの実践、作品制作、発表といった形式で進めていきます。学生参画型の授業を進めていこうと考えています。主体的な参画をお願いします。きくこと、語ること、読むこと、書くことが比較的多いと思いますが、習熟して行きますので、繰り返し行います。			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		レポート	50	①	✓			・インタビューした内容が豊かに描かれている。 ・書くことによって思考したことが読み取れる文章になっている。 ・人の所作を描きながら、地域の文化的な風景が読み取れる文章になっている。 ・まちづくりへのヒントが描かれている。 ・他者に伝わる文章が書けている。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	40	①	✓			・pisa型学力 授業で学んだことことをいかして、インタビューができる。また、その成果をまとめたレポートが書ける。レポートを軸に、プレゼンができ、講評をもとに新しいアイデアを発見することができる。 ・プレゼン インタビューの成果をまとめた魅力的なプレゼンをすることができる。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			（主体性） 自ら、必要な知識についてさらに理解を深めるための調査研究ができる。ゼミ活動が円滑にすすむための資料を集めることができる。 （働きかけ力） 迷ったときや、困ったときに、他のメンバーや教員に助けを求めることができる。 （実行力） 目標を設定して、知識習得のために、最後まで、やりぬくことができる。 （課題発見力） 資料、教科書からわかったこと、自分の体験したことを、客観的に、連動させて考えることができる。 （計画力） 目標を明確にし、計画を立て、チームで共有し、実行し評価・修正し、次の行動に結びつけることができる。 （創造力） 課題を考えると、自己の固定観念にとらわれることなく、文献を活用したり、他者からの意見を取り入れ、考えることができる。 （発信力） グループで話し合った結果をパワーポイント・資料を作成し、発表原稿を準備し、発表できている。 （傾聴力） グループワークで、人の意見を確認し、さらに自分の意見がのべることができる。 （柔軟性） 自分と異なる意見や考えを理解し、お互い譲歩できるところみだし、活動につなげることができる。 （状況把握力） メンバーの行動をみながら、自分の立ち位置を考えて、行動できる。 （規律性） 遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動せず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。 欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。 （ストレスコントロール力） メンバーとの調整がとれない、計画どおり進まないことがあっても、その原因を分析し、他のメンバーと相談し、前向きに行動することができる。	
			②	✓				
			③	✓				
			④	✓				
			⑤	✓				
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
S(秀)：①+②+③ A(優)：①+② ①積極的に聞き書きに挑み、オリジナリティのある作品が完成できている。 ②作品のコンセプトやテーマなどが秀逸である。 ③作品の完成度が極めて高く表現にも工夫が見られる。	B(良)：①+②+③ C(可)：①+② ①作品を提出できている。 ②作品が及第点の完成度で達成している。 ③作品の制作過程において周囲を積極的にサポートできていた。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1・2	・聞き書きの実践② 地域の方にインタビューを実施し、文章をまとめる経験から学ぶ。	地域の方を現場訪問し、実際のインタビューを行う。 インタビューの書き起こしを行なって文章を完成させる。 ・パソコンを使用して原稿をまとめる。	インタビューを実施し、その文章をまとめることができる	(予習) これまでの授業を振り返り、インタビューの準備をすすめる (復習) 文章の書き起こし	90	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性 ストレスコントロール力
3・4	・聞き書きの実践②の振り返り 地域の方にインタビューを実施し、文章をまとめる経験から学ぶ。	座学で作品の解説をレクする。 個人ワーク：内容を整理しまとめる。 ペアワーク：お互いの意見交換を行い、自分の意見を推敲する。	自分の体験を他者へ伝えるように発表することができる。また、他者の発表に対する講評をすることができる。	(予習) 発表の準備をすすめる (復習) いただいた講評をもとに成果を校正する	180	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性 ストレスコントロール力
5	・聞き書きの実践③ 地域の方にインタビューを実施し、文章をまとめる経験から学ぶ。	地域の方を現場訪問し、実際のインタビューを行う。 インタビューの書き起こしを行なって文章を完成させる。 ・パソコンを使用して原稿をまとめる。	インタビューを実施し、その文章をまとめることができる	(予習) これまでの授業を振り返り、インタビューの準備をすすめる (復習) 文章の書き起こし	180	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性 ストレスコントロール力
6	・聞き書きの実践③の振り返り 地域の方にインタビューを実施し、文章をまとめる経験から学ぶ。	完成した原稿を発表し、全体講評を行う。 ・パソコンを使用してスライド資料を発表する。	自分の体験を他者へ伝えるように発表することができる。また、他者の発表に対する講評をすることができる。	(予習) 発表の準備をすすめる (復習) いただいた講評をもとに成果を校正する	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 ストレスコントロール力
7～9	ゼミ発表に向けて、チームで、役割分担を決め、進める	各位のプレゼンテーションと講評を振り返り、原稿を推敲し、冊子化の準備を進める。 ・パソコンを使用してプレゼンの準備をすすめる。	各自の分担されたデータ処理し、まとめることができる。	(予習) 冊子制作に向けてのアイデアを整理する。 (復習) 各自の役割分を振り返り、業務を進める。	270	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
10・11	冊子制作 これまでの聞き書きを整理し、作品として冊子に綴じる。	製本の仕方をレクし、各位で製本を実施する。 ・パソコンを使用して台本割をデザインする。	チームで分担し、冊子が制作できる。	(予習) 魅力的な冊子のフォーマットを考える。 (復習) チームで分担された資料を作成する。	180	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
12・13	インタビューの成果をご本人に読んでもらい、コメントをもらう。	インタビューを実施した方々に作品を届け、読んでもらい、感想をいただくる。 いただいた感想は記録し、発表できるものに編集する。 ・パソコンを使用してプレゼン資料を準備する。	インタビューの成果をご本人に戻し、フィードバックがもらえる。	(予習) 制作した作品をご本人にどうやってお渡しするか、段取りをする。 (復習) いただいたフィードバックを編集しまとめる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	ゼミ活動のプレゼンの進捗報告会とし、意見交換を行う。	オンデマンド。ゼミ発表会に向けてのプレゼンの進捗を報告する。 ・パソコンを使用してプレゼン資料を報告する。	具体的な発表行程表が作成でき、実施するための準備ができる。	(予習) 一年間のゼミ活動を発表するための資料を収集作成する (復習) 一年間のゼミ活動を振り返る	180	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
15	・お互いのプレゼンに対する講評をする。	ゼミ活動のプレゼンを行う	お互いのプレゼンに対して、適切な批評と評価がコメントできる。	お互いのプレゼンを振り返って予習しておく。	90	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
	27・28					

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2025年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
31111I	総合ゼミナールⅡ（村上拓也）	村上拓也			1	必修	2後期
科目の概要							
各自または各グループで設定したテーマに基づいて作品制作及び研究をするか、官学連携活動または産学連携活動に参加するかを選択する。最後に発表し、フィードバックを得ることでデザインの見識を深め、表現する能力を獲得し、建学の精神・社会人基礎力・pisa 型学力を統合的に身に付けていく。これらはディプロマポリシー①②③④⑤に相当する。 *以下の官学連携活動は有志による選択制で進める。 ・岡崎市役所生涯学習課 連携事業（360度仕掛け絵本の展示） *以下の産学連携活動は有志による選択制で進める。 ・遊び創造labo 連携企画（企画内容の考案から始める） （2件の連携活動は4月上旬に開始し、夏季休暇も活動を行い、2025年度内に終了予定。）							
学修内容			到達目標				
① コンセプトワークの種類や技法を知る。 ② メディア毎に異なるデザイン手法を理解する。 ③ コンテンツに応じて、適切なメディアを選択し、効果的に表現する。 ④ 発案からアウトプットまで一通りのプロセスを経験する。			① コンセプトワークの種類や技法を知り、説明することができる。＊ディプロマポリシー②に相当する ② メディア毎に異なるデザイン手法を理解し、説明することができる。＊ディプロマポリシー②に相当する ③ コンテンツに応じて、適切なメディアを選択し、効果的に表現することができる。＊ディプロマポリシー②に相当する ④ 発案からアウトプットまで一通りのプロセスを実施することができる。＊ディプロマポリシー①②③④⑤に相当する				
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	自らの意志と責任で学習を進め、あらゆる事を自分事として捉えていくことができる。					
	働きかけ力	困難があっても先生や友人などに助言を求め、自ら解決に向けて努力できる。					
	実行力	頭で考えるだけでなく、実際に行動に移しトライアンドエラーを実践できる。					
考え抜く力	課題発見力	与えられた課題を解くだけでなく、自ら課題を発見し解決に向けた道筋を立てて行動できる。					
	計画力	行動を起こす前にビジョンを明確にし、タスクを細分化したうえで次の行動を決められる。					
	創造力	前例や事例をよく調べた上で、新しい視点で既存の枠組みを捉え直すことができる。					
チームで働く力	発信力	相手に正しく伝わっているかどうかを確認しながら、適切な方法で発信できる。					
	傾聴力	話している言葉の内容だけでなく、意志伝達の際の全体像を汲み取って聴くことができる。					
	柔軟性	一度決めた目標であっても、変更の必要性があれば柔軟に対処できる。					
	状況把握力	全体のなかで常に現在地を把握することに努め、状況を俯瞰し適切な対応ができる。					
	規律性	遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。					
	ストレスコントロール力	生活のなかに適度に休む時間を設け、バランスよく学習を進めることができる。					
テキスト及び参考文献							
使用テキスト及び参考文献は都度、classroomや授業内で紹介する。							
他科目との関連、資格との関連							
他科目との関連：「CG演習(フォトショップ)」、「CG演習(イラストレーター)」、「デジタル映像演習」、「Webデザイン基礎演習」、「Webデザイン応用演習」、「デジタルマーケティング」、「デジタルコンテンツ」、「デジタル映像演習」							
資格との関連：ウェブデザイン実務士							
学修上の助言			受講生とのルール				
各自進めていく作品制作では、困ったことがあったら一人で抱え込まず、担当教員含め周りの人に相談してください。不明な点は都度確認してください。			Classroomなどのオンラインツールを使って連絡を行います。作品制作が遅れていたり、解決できない問題などで進まないとき、判断に困ることがあるときなど相談してください。				

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
		レポート	20	①	✓			「1年間ゼミ活動の考察」と「ゼミ活動を通して広がったデザイン思考の知見」の2枚のレポート課題を書く。 ＊予定
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	70	①	✓			官学連携プロジェクト及び卒業研究の取り組み姿勢、積極性、成果物を総合的に評価する。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			（主体性）アプリの使い方を自ら調べながら積極的に作品制作を行うことができる。 （実行力）何度も修正を繰り返し作品の精度を上げることができる。 （課題発見力）作品制作のなかで、課題となる点を探し解決へ導くことができる。 （創造力）前例を調べつつ、新規性を開拓することができる。 （発信力）プレゼンテーションにて適切な手段を用いて、相手に伝わる工夫をすることができる。 （傾聴力）他者のプレゼンテーションを聴いて、適切に批評を行なうことができる。 （規律性）遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。欠席した場合は欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。	
			②	✓				
			③	✓				
			④	✓				
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
S(秀)：官学連携プロジェクトについて、積極的な姿勢が十分にあり、成果物も突出して優れている。 A(優)：官学連携プロジェクトについて、積極的であり、成果物も優れている。	B(良)：官学連携プロジェクトについて、取り組み姿勢が平均的であり、成果物は可もなく不可もなく、あくまで及第点である。 C(可)：官学連携プロジェクトについて、取り組み姿勢が消極的であり、成果物はあるが、改善事項が多数見られる。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	前期に行った企業のリブランディングをプレゼンする。	演習と講義 企業のリブランディングをプレゼンし、フィードバックを聞く。	企業のリブランディングをプレゼンし、フィードバックを聞いて改善することができる。	(予習)企業のリブランディングを進められるよう準備する。 (復習)企業のリブランディングを進められるよう準備する。	90	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
2	前期に行った企業のリブランディングをプレゼンする。	演習と講義 企業のリブランディングをプレゼンし、フィードバックを聞く。	企業のリブランディングをプレゼンし、フィードバックを聞いて改善することができる。	(予習)企業のリブランディングを振り返る。 (復習)企業のリブランディングを振り返る。	90	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
3	各自・各グループでの研究の場合、テーマ決めとコンテンツのコンセプト作りを行い、半年かけて何を研究していくか準備をする。 産学連携活動に参加するメンバーは、進め方を各班で協議する。 (順次個別面談と相談を予定)	演習 各自のプランに基づいて、制作を進める。	自分のプランに基づいて、制作を進めることができる。	(予習)企業のリブランディングを振り返る。 (復習)企業のリブランディングを振り返る。	90	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
4～ 11	各自・各チームのプランに基づいて、制作を進める。	演習 各自・各チームのプランに基づいて、制作を進める。	プランに基づいて、制作を進めることができる。	(予習)各自のプランにおいて制作の準備をする。 (復習)各自のプランにおいて制作の準備をする。	90	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
12～ 13・ 15	各自・各チームのプランに基づいて、制作を進める。 ゼミ報告会に向けてパワーポや発表原稿を準備する。	演習 各自・各チームのプランに基づいて、制作を進める。 ゼミ報告会に向けてパワーポや発表原稿を準備する。	各自・各チームのプランに基づいて、制作を進めることができる。 ゼミ報告会に向けてパワーポや発表原稿を準備することができる。	(予習)ゼミ報告会の準備をする。 (復習)ゼミ報告会の準備をする。	90	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
14	【オンデマンドによる実施】 1年間の振り返りと相互評価・まとめを行う。	オンデマンド 1年間の振り返りと相互評価・まとめを行い、フィードバックを得る。	1年間の振り返りと相互評価・まとめを行うことができる。	(予習)1年間の振り返りをしておく。 (復習)1年間の振り返りをしておく。	90	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2025年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
31111J	総合ゼミナールⅡ（山田麻由）	山田麻由			1	必修	2後期

科目の概要

本ゼミナールでは、前期で習得した基礎スキルを活用し、学科の魅力を効果的に発信するという課題に取り組む。チームでの企画・制作・運用を一貫して行うことで、総合的な課題解決力を養う。Adobe Premiere Proやスマホアプリ、AIツールなどを駆使したコンテンツ制作と（ディプロマ・ポリシー②・③・⑤に相当）、実践的なSNS運用を通じて、現代のデジタルコミュニケーションスキルを総合的に身につける（ディプロマ・ポリシー①・④・⑥に相当）。

学修内容	到達目標
① Adobe Premiere ProやAIツールなど、制作ツールの応用的な活用方法を修得する。 ② 学科の魅力を効果的に伝えるための企画立案とコンテンツ制作を実践する。 ③ チーム制作を通じて、効率的な制作ワークフローを確立する。 ④ SNSの分析データに基づく改善提案と実践を行う。 ⑤ 学科広報としての責任ある情報発信方法を身につける。	① Adobe Premiere ProやAIツールなど、制作ツールの応用的に活用できる（ディプロマ・ポリシー⑤に相当） ② 学科の魅力を効果的に伝えるための企画を立案し、コンテンツを制作できる（ディプロマ・ポリシー②・③に相当） ③ チーム制作を通じて、効率的に制作できる（ディプロマ・ポリシー①・④に相当） ④ SNSの分析データに基づいて改善提案ができる（ディプロマ・ポリシー⑤・⑥に相当） ⑤ 学科広報としての責任ある情報発信をおこなうことができる（①・④に相当）

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	SNSの最新トレンドに関心を持ち、学科の魅力を伝えるための表現として応用しようと努力する。
	働きかけ力	
	実行力	担当する役割を責任を持って遂行し、チームで設定した目標に向かって積極的に取り組むことができる。
考え抜く力	課題発見力	SNSでの発信において、より効果的な表現方法や改善点を見極め、適切な解決方法を見つけることができる。
	計画力	
	創造力	学科の特徴を活かしたコンテンツを企画し、魅力的な作品として展開することができる。
チームで働く力	発信力	チーム内で情報や課題を適切に共有し、円滑なコンテンツ制作を進めることができる。
	傾聴力	チーム内での意見や提案を注意深く聞き、必要に応じて確認や質問ができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキストなし
内容に応じてPDF資料をGoogle Classroomにアップロード

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：「デジタル映像演習」、「CG演習(フォトショップ)」、「CG演習(イラストレーター)」、「デジタルコンテンツ」
資格との関連：ウェブデザイン実務士

学修上の助言	受講生とのルール
SNSの運用と広報活動を通じて、実践的なコンテンツ制作スキルを身につけていきます。チームでの制作では、それぞれの得意分野を活かしながら、積極的なコミュニケーションを心がけましょう。また、データ分析や改善提案を通じて、より効果的な発信方法を探求していきます。分からないことがあれば、すぐにチームで共有し、解決していきましょう。	円滑にプロジェクトを進めるために、授業開始5分前には着席し、Google Classroom、個人サーバー（B13）へのログイン、アプリケーションの起動などを済ませておいてください。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		レポート	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	90	①	✓			以下の3つの企画から1つを選択して制作 ①学科PR動画（ショート動画形式） ②ゼミ紹介動画（新ゼミ撮影・編集／既存ゼミリニューアル） ③学科イベント・行事のドキュメンタリー （評価のポイント） ・企画力と演出力 ・AIツールの効果的な活用 ・チーム内での役割遂行 ・トレンド分析と作品への反映 ・自主的なスキルアップへの取り組み ・日常的な撮影・取材活動
				②	✓			
				③	✓			
				④				
				⑤	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①				(主体性) SNSの最新トレンドに関心を持ち、学科の魅力を伝えるための表現として応用しようと努力する。 (実行力) 担当する役割を責任を持って遂行し、チームで設定した目標に向かって積極的に取り組むことができる。 (課題発見力) SNSでの発信において、より効果的な表現方法や改善点を見極め、適切な解決方法を見つけることができる。 (創造力) 学科の特徴を活かしたコンテンツを企画し、魅力的な作品として展開することができる。 (発信力) チーム内で情報や課題を適切に共有し、円滑なコンテンツ制作を進めることができる。 (傾聴力) チーム内での意見や提案を注意深く聞き、必要に応じて確認や質問ができる。 (規律性) 遅刻、無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。	
			②					
			③	✓				
			④	✓				
			⑤					
			総合評価割合			100		

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
S(秀) ①制作したコンテンツの完成度が極めて高く、SNSでの効果的な表現が実現できている。 ②企画内容とキャプションが優れており、学科の魅力が効果的に伝わる工夫がある。 ③SNSトレンドを的確に分析し、制作に反映できている。 ④チーム活動に主体的に参加し、積極的に提案・実行できている。 ⑤社会人基礎力の能力要素にある7項目が達成できている。 A(優) 上記①～④に加え、社会人基礎力の能力要素にある7項目のうち【規律性】を含む6項目が達成できている。	B(良) ①担当するコンテンツを期限内に制作・投稿できている。 ②コンテンツの企画に工夫を凝らすことができている。 ③SNSトレンドを理解し、参考にできている。 ④チーム活動に定期的に参加している。 ⑤社会人基礎力の能力要素にある7項目のうち【規律性】を含む5項目が達成できている。 C(可) 上記①～④に加え、社会人基礎力の能力要素にある7項目のうち【規律性】を含む4項目が達成できている。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	後期イントロダクション ・ゼミの進め方について ・後期プロジェクト参加希望確認 ・学泉祭について	【講義】 ・ゼミの進め方について、スケジュール ・後期プロジェクト概要 ・学泉祭でのブース出店についてについて 【演習】 ・後期プロジェクトチーム分け ・学泉祭役割分担	後期プロジェクトや学泉祭の活動概要を確認することができる。	(復習)Classroomにアップされた『後期プロジェクトについて』資料を読んでおく。 (予習)前年度の学泉祭の様子を確認しておく。	90	主体性 課題発見力 計画力 発信力 傾聴力 規律性
2-5	学泉祭 企画～準備～制作	【演習】 ・企画ごとのチームに分かれる ・チームで企画～準備～制作 ・学泉祭当日の役割分担	チームで企画～準備～制作を行うことができる。当日も与えられた役割を全うできる。	(復習)振り返りフォームに活動報告を記入する。 (予習)チームで共有された資料を読んでおく。	90	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
6-12	後期プロジェクトの企画・撮影・編集 ①学科PR動画（ショート動画形式） ②他ゼミとのコラボ動画 ③学科イベント・行事の撮影・SNS運営 企画・撮影・編集	【演習】 ・3つのプロジェクトで希望のチームに分かれる ・チームで企画～準備～制作	チームで企画～準備～制作を行い、作品を完成させることができる。	(復習)Classroomに配信された資料を再度確認する。 (予習)チームで共有された資料を読んでおく。	90	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
13	ゼミ活動報告 原稿作成	【講義】 【演習】 ・代表発表者決定 ・代表者は前期活動についてまとめる ・後期、各チームの活動報告作成→提出 ・発表原稿作成	1年間の活動を振り返り、報告書を作成・提出できる。	(復習)他チームの活動報告を確認する。 (予習)チームで共有された資料を読んでおく。	90	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	※オンデマンド講義※ ゼミ活動報告 原稿・スライド作成	【オンデマンド形式】 ・ゼミ活動報告原稿作成 ・スライド作成 ・完成、提出	担当分の原稿とスライドを作成し、完成させて提出できる。	(復習)他のメンバーが作成した原稿とスライドを確認する。 (予習)完成した台本とスライドを参照しながら練習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 ストレスコントロール力
15	ゼミ発表会を終えて、1年間の総まとめ・振り返り	【講義】 【演習】 ・後期プロジェクト作品の講評 ・1年間の総評 ・振り返りシート記入、提出	ピアレビューを行い、振り返りシートを記入し、提出することができる。	(復習)全員分の振り返りシートを確認する。	90	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2025年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
31111K	総合ゼミナールⅡ（小野功一郎） Comprehensive Seminar Ⅱ (Ono Koichiro)	小野功一郎			1	必修	2後期
科目の概要							
本科目では、総合ゼミナールIで学んだ知識と計画に基づき、実際にチャットボットの開発・実装・運用を行います。自らの関心分野に特化したチャットボットを設計・開発し、実際のユーザーからのフィードバックを得て改善するというプロジェクト型学習を通じて、実践的なAI活用スキルと問題解決能力を養成します。また、開発プロセスや成果について効果的に発表するプレゼンテーション能力も育成します。							
学修内容				到達目標			
① 総合ゼミナールIで作成した企画書に基づくチャットボット開発計画の詳細化と機能要件の定義を行う。 ② チャットボット開発プラットフォームの応用的な使用方法と設定技術を得る。 ③ 高度なプロンプトエンジニアリング技術を学び、チャットボットの応答精度を向上させる方法を理解する。 ④ ユーザーインターフェースの設計と改善方法について学び、実践する。 ⑤ チャットボットのテスト方法とユーザーフィードバックの収集・分析方法を学ぶ。 ⑥ 収集したフィードバックに基づくチャットボットの改善と最適化技術を得る。 ⑦ チャットボットの運用管理とパフォーマンス評価の方法について理解する。 ⑧ プロジェクト管理技術を活用し、チーム内での効果的な協働方法を実践する。 ⑨ チャットボット開発プロジェクトの成果をまとめ、効果的なドキュメンテーション方法を学ぶ。 ⑩ 開発したチャットボットとそのプロセスについて、説得力のあるプレゼンテーション技術を得る。				① 自らの関心分野に特化したチャットボットを設計・開発できる。 ② チャットボット開発プラットフォームを応用レベルで使いこなすことができる。 ③ 高度なプロンプトエンジニアリング技術を駆使し、精度の高い応答を実現できる。 ④ ユーザーフレンドリーなインターフェースを設計・実装できる。 ⑤ 効果的なテスト計画を立案し、ユーザーからのフィードバックを適切に収集・分析できる。 ⑥ フィードバックに基づくチャットボットの継続的な改善と最適化を行うことができる。 ⑦ チャットボットの運用管理計画を策定し、パフォーマンスを適切に評価できる。 ⑧ プロジェクト管理技術を活用し、チーム内での役割を適切に果たすことができる。 ⑨ チャットボット開発プロジェクトの成果と学びを体系的にドキュメント化できる。 ⑩ 開発したチャットボットとその過程について、説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	自らの目標を明確に設定し、チャットボット開発プロジェクトに主体的に取り組むことができる。困難な状況においても自発的に解決策を模索し、積極的に行動することができる。					
	働きかけ力	チーム内外の協力者に対して適切に働きかけ、プロジェクト成功に向けた協力体制を構築できる。他者の強みを活かしながら、効果的な役割分担とタスク管理を提案できる。					
	実行力	設定した目標と計画に基づいて着実に行動し、困難や障害があっても粘り強く取り組むことができる。PDCAサイクルを回しながら、継続的に改善活動を実践することができる。					
考え抜く力	課題発見力	チャットボット開発・運用において直面する課題を的確に捉え、その本質的な原因を多角的に分析することができる。ユーザーフィードバックから隠れたニーズや問題点を見出すことができる。					
	計画力	チャットボット開発・運用の全体プロセスを見通し、適切なマイルストーンと進捗管理方法を設定できる。リスク要因を事前に想定し、効率的かつ効果的なプロジェクト計画を策定できる。					
	創造力	既存の枠組みにとらわれず、独創的なアプローチでチャットボットの機能やユーザー体験を考案できる。異なる知識や技術を組み合わせ、新たな価値を創出することができる。					
チームで働く力	発信力	チャットボット開発プロジェクトの進捗や成果を論理的かつ分かりやすく伝えることができる。データや事例を効果的に用いて、説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。					
	傾聴力	チームメンバーやユーザーの意見・フィードバックを真摯に受け止め、その真意を正確に理解することができる。多様な視点を尊重し、それらを適切にプロジェクトに反映させることができる。					
	柔軟性	状況の変化や予期せぬ問題に対して柔軟に対応し、必要に応じて計画や方針を修正することができる。異なる意見や批判を建設的に受け止め、より良い解決策を見出すことができる。					
	情況把握力	プロジェクト全体の進捗状況と各メンバーの作業状況を常に把握し、チーム内での自分の役割と責任を理解することができる。課題や遅延が生じた際に適切な支援や調整を行うことができる。					
	規律性	期限や約束事を厳守し、チーム内での信頼関係を構築・維持することができる。プロジェクト運営上のルールやガイドラインを遵守し、責任ある行動をとることができる。					
	ストレスコントロール力	開発過程での困難やプレッシャーに対して、冷静かつ効果的に対処することができる。ストレス状況下でも精神的バランスを保ち、生産性と判断力を維持することができる。					
テキスト及び参考文献							
テキスト：授業内配布 参考文献：授業内案内							
他科目との関連、資格との関連							
他科目との関連：「総合ゼミナールI」の発展科目。「データ解析とAI」「AIと社会」「応用統計手法」などの科目で学んだ知識を実践的に活用する。 資格との関連：DS・AIパスポート資格の実践的内容を含む。							
学修上の助言				受講生とのルール			
本ゼミナールでは、実際のチャットボット開発・運用を通じて実践的なスキルを身につけることを目指します。計画段階から実装、テスト、改善、運用までの一連のプロセスを経験することで、AIツール活用の本質的な理解を深めることができます。困難に直面した際は早めに相談し、チームで協力して解決する姿勢を持ちましょう。また、実際のユーザーからのフィードバックを大切に、継続的な改善を行うことが重要です。				・ゼミナールの活動に積極的かつ主体的に参加すること ・チーム内での役割と責任を自覚し、期限を守って作業を進めること ・定期的に進捗状況を報告し、必要に応じて支援を求めること ・他者の意見や批評を建設的に受け止め、プロジェクト改善に活かすこと ・開発したチャットボットの倫理的・社会的影響を常に考慮すること ・授業の進展具合等によりシラバスを変更する場合があります			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①		⑥		
				②		⑦		
				③		⑧		
				④		⑨		
				⑤		⑩		
	平常評価	小テスト	0	①		⑥		
				②		⑦		
				③		⑧		
				④		⑨		
				⑤		⑩		
		レポート	20	①	✓	⑥	✓	開発プロセスのドキュメンテーション、テスト結果の分析、改善策の提案などの質を評価します。特に、プロジェクト全体の振り返りと学びを体系化する能力を重視します。
				②	✓	⑦	✓	
				③	✓	⑧	✓	
				④	✓	⑨	✓	
				⑤	✓	⑩	✓	
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	50	①	✓	⑥	✓	開発したチャットボットの完成度、機能性、ユーザビリティを総合的に評価します。また、開発過程とその成果について説得力あるプレゼンテーションができていないかを評価します。
				②	✓	⑦	✓	
				③	✓	⑧	✓	
				④	✓	⑨	✓	
				⑤	✓	⑩	✓	
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	30	①	✓	⑥	✓	実行力、課題解決能力、チームでの協働、計画的な進捗管理などを総合的に評価します。特に、困難な状況での粘り強さや、フィードバックに基づく継続的な改善姿勢を重視します。	
			②	✓	⑦	✓		
			③	✓	⑧	✓		
			④	✓	⑨	✓		
			⑤	✓	⑩	✓		
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
S (秀) - 高度な技術と創造性を駆使した独創的かつ実用的なチャットボットを開発できる - ユーザーニーズを的確に捉え、優れたユーザー体験を提供するシステムを実現できる - 開発プロセス全体を効果的に管理し、適切な問題解決と継続的改善を行える - 開発成果とプロセスについて卓越したドキュメンテーションとプレゼンテーションができる - チーム内でリーダーシップを発揮し、プロジェクト全体の成功に大きく貢献できる A (優) - 技術的に充実し、実用性の高いチャットボットを開発できる - ユーザーのフィードバックを適切に取り入れ、使いやすいシステムを構築できる - 開発プロセスを計画的に管理し、問題に対して適切な対応ができる - 開発成果とプロセスについて質の高いドキュメンテーションとプレゼンテーションができる - チーム内で積極的に貢献し、プロジェクトの進行を支援できる	B (良) - 基本的な機能を備えた実用的なチャットボットを開発できる - ユーザーフィードバックを取り入れ、一定の改善ができる - 開発プロセスを管理し、基本的な問題解決ができる - 開発成果とプロセスについて適切なドキュメンテーションとプレゼンテーションができる - チーム内での役割を果たし、プロジェクトに貢献できる C (可) - 基本的な機能を持つチャットボットを開発できる - 指導のもとでユーザーフィードバックを収集し、システム改善ができる - 基本的な開発プロセスを理解し、管理できる - 開発成果とプロセスについて基本的なドキュメンテーションとプレゼンテーションができる - チームの一員として、割り当てられた作業を遂行できる

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	チャットボット開発計画の詳細化・前期企画の見直し・機能要件の詳細定義・開発スケジュールの確定	ワークショップ形式・前期企画の振り返り・機能要件の定義演習・スケジュール作成	前期の企画を見直し、基本的な機能要件を定義できる。簡単な開発スケジュールを作成できる。	(予習)前期の企画書を見直す (復習)機能要件とスケジュールの精緻化	90	主体性 計画力 創造力
2	高度なチャットボット開発技術①・プラットフォーム応用機能・APIとの連携・データベース連携の基礎	講義と実習・応用機能のデモンストレーション・APIとの連携演習・データベース基礎演習	開発プラットフォームの応用機能を理解し、基本的なAPI連携ができる。簡単なデータベース連携の概念を理解できる。	(予習)APIとデータベース連携に関する基礎知識を調べる (復習)学んだ技術の自己プロジェクトへの適用検討	90	実行力 創造力 状況把握力
3	高度なチャットボット開発技術②・自然言語処理の基礎・エンティティ抽出・インテント認識	講義と実習・自然言語処理の基礎解説・エンティティ設定演習・インテント定義演習	基本的なエンティティとインテントを設定できる。自然言語処理の基礎概念を理解できる。	(予習)自然言語処理の基礎を調べる (復習)エンティティとインテント設定の練習	90	実行力 課題発見力 創造力
4	プロンプトエンジニアリング応用・複雑な会話フロー設計・文脈理解の改善・応答品質の最適化	講義と演習・高度なプロンプト技術の解説・文脈管理の演習・応答最適化の演習	複数ターンの会話を管理するプロンプトを設計できる。基本的な応答品質の最適化ができる。	(予習)基本プロンプト設計の復習 (復習)学んだ技術の自己プロジェクトへの適用	90	実行力 課題発見力 創造力
5	ユーザーインターフェース設計・UI/UXの基本原則・チャットボットインターフェース設計・ユーザビリティ考慮点	講義とワークショップ・UI/UX原則の解説・インターフェース設計演習・ユーザビリティ評価演習	基本的なチャットボットインターフェースを設計できる。ユーザビリティの基本的な考慮点を理解できる。	(予習)UI/UXの基本原則を調べる (復習)自己プロジェクトのインターフェース改善	90	課題発見力 計画力 創造力
6	チャットボット実装演習①・基本機能の実装・対話フローの構築・初期テスト	実習形式・コーディングセッション・対話フロー実装演習・初期テスト方法の解説	基本的な機能を実装し、シンプルな対話フローを構築できる。基本的なテストを実施できる。	(予習)実装する機能の設計を確認する (復習)実装した機能のテストと修正	90	実行力 課題発見力 計画力
7	チャットボット実装演習②・応用機能の実装・条件分岐と例外処理・データ連携の実装	実習形式・応用機能の実装演習・例外処理の実装演習・データ連携の実装演習	条件分岐と基本的な例外処理を実装できる。シンプルなデータ連携を実装できる。	(予習)応用機能の設計を確認する (復習)実装した機能のテストと修正	90	実行力 課題発見力 創造力
8	テスト計画と実施・テスト手法の種類・テストケース設計・テスト実施と結果分析	講義と実習・テスト手法の解説・テストケース設計演習・テスト実施演習	基本的なテスト計画を立て、テストケースを設計できる。テスト結果を分析し、基本的な問題を特定できる。	(予習)テスト手法について調べる (復習)テスト結果に基づく改善点の特定	90	課題発見力 計画力 状況把握力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
9	ユーザーフィードバック収集・フィードバック収集方法・ユーザーテスト実施・フィードバック分析	ワークショップ形式・フィードバック収集手法の解説・ユーザーテスト実施演習・フィードバック分析演習	基本的なフィードバック収集方法を理解し、実施できる。収集したフィードバックを分析し、主要な改善点を特定できる。	(予習)フィードバック収集方法を調べる (復習)収集したフィードバックの整理と分析	90	課題発見力 柔軟性 状況把握力
10	チャットボット改善と最適化・フィードバックに基づく改善・応答精度の向上・パフォーマンス最適化	実習形式・改善ポイントの特定演習・応答精度向上の演習・パフォーマンス最適化演習	フィードバックに基づいて基本的な改善を実施できる。応答精度を向上させるための基本的な方法を実践できる。	(予習)改善すべきポイントを整理する (復習)実施した改善の効果を検証する	90	実行力 課題発見力 創造力
11	チャットボット運用管理・運用計画の策定・パフォーマンスモニタリング・継続的改善プロセス	講義とワークショップ・運用管理の基本解説・モニタリング手法の紹介・継続的改善計画策定演習	基本的な運用計画を策定できる。パフォーマンスモニタリングの基本的な方法を理解できる。	(予習)運用管理に関する基礎知識を調べる (復習)運用計画の精緻化	90	実行力 計画力 状況把握力
12	プロジェクト成果のドキュメント化・開発プロセスの記録・技術ドキュメントの作成・ユーザーガイド作成	講義と演習・ドキュメント作成の基本解説・技術ドキュメント作成演習・ユーザーガイド作成演習	基本的な技術ドキュメントを作成できる。シンプルなユーザーガイドを作成できる。	(予習)ドキュメント作成の基本を調べる (復習)作成したドキュメントの改善	90	計画力 発信力 状況把握力
13	最終プレゼンテーション準備・プレゼン内容の構成・デモンストレーション準備・視覚資料の作成	ワークショップ形式・プレゼン構成の指導・デモ準備のサポート・視覚資料作成のガイダンス	基本的なプレゼンテーション内容を構成できる。簡単なデモンストレーションを準備できる。	(予習)プレゼン内容の構成を考える (復習)プレゼン資料の改善とデモの練習	90	計画力 創造力 発信力
14	最終成果物のブラッシュアップ・最終調整と修正・パフォーマンス確認・発表リハーサル	実習とフィードバック・最終調整のサポート・パフォーマンス確認演習・リハーサルと改善指導	基本的な最終調整を行い、チャットボットを動作させることができる。簡単なリハーサルを行い、基本的な改善を実施できる。	(予習)チャットボットの最終チェック (復習)フィードバックに基づく最終調整	90	実行力 発信力 状況把握力
15	最終プレゼンテーションと振り返り・成果発表・相互評価・プロジェクト振り返り	発表会形式・個人/グループ発表・質疑応答・振り返りディスカッション	開発したチャットボットとその成果を基本的に発表できる。プロジェクト全体を振り返り、主要な学びを特定できる。	(予習)発表の最終準備 (復習)全体プロジェクトの振り返りと今後の学習課題の特定	90	発信力 傾聴力 柔軟性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力